地理教科書

卷一

東京帝國大學農科大學助教授
兼
東京帝國大學工科大學助教授
理學士
脇水鐵五郎
著

東京
金港堂書籍株式會社

危礁亂立大濤間　決背西南不見山
鷗影低迷帆影沒　天連水處是臺灣

凡例

一、本書は主として明治三十五年二月發布の文部省訓令第三號により、中學校及び之と同程度の諸學校に於ける地理科用教科書たらしむる目的を以て編纂したるものにして、分ちて四卷とし、各學年に各一册を配當せり。但し地文は便宜上地文教科書として本書と分離したれども、互に連絡を有せしめたるは勿論なり。

一、外國の地名人名の發音は從來聞き慣れたるものは成るべく之を採用し、其他は外國の地理書、地圖、字彙等に於て最も普通なるものを選びたり。尚參考の爲め各卷末に原字を添へ、文部省外國地名調査報告との對照表を附せり。

一、都會の下にある數字は人口、河の下にあるものは長さ、湖の下にあるは面積を示せるものなり。而して都會の人口は單位を萬とし、凡そ二十萬以上に限り、河の長さは里數を用ひて凡そ五百里

以上に限り、湖の面積は方里を用ひて凡そ千方里以上に限りて記入せり。

一、統計は主として日本帝國第二十統計年鑑、千九百二年版の The Statesman's Year-book 及び The Century Cyclopedia of Names 等に取れり。

一、地圖は參考者の便を圖りて別冊とし、分ちて上下二卷とせり。

明治三十六年一月

著者識す

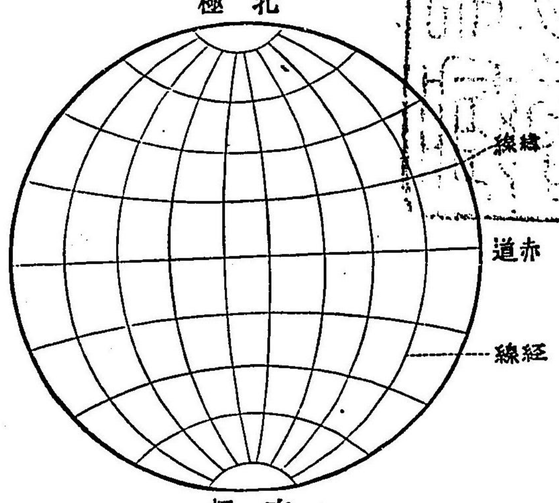
地理教科書卷一

目錄

第一編　緒論　一五
第二編　日本地誌　一五
第一章　總論　一五
第一節　位置　一六
第二節　地勢　二三
第三節　氣候　二七
第四節　天產物　二八
第五節　住民　三三
第六節　政治　四四
第七節　生業　一頁

第八節　交通　五〇
第二章　地方誌
第一節　關東八州　五四
東京府　神奈川縣　埼玉縣　千葉縣　茨城縣
栃木縣　群馬縣
第二節　奥羽　七〇
福島縣　宮城縣　岩手縣　青森縣　秋田縣
山形縣
第三節　本州中部　八二
新潟縣　長野縣　山梨縣　靜岡縣　愛知縣
岐阜縣　富山縣　石川縣
第四節　近畿地方　一〇一
福井縣　滋賀縣　京都府　三重縣　奈良縣

和歌山縣　大阪府　兵庫縣
第五節　中國　一二三
鳥取縣　島根縣　山口縣　廣島縣　岡山縣
第六節　四國　一三二
香川縣　德島縣　高知縣　愛媛縣
第七節　九州　一三九
大分縣　福岡縣　佐賀縣　長崎縣　熊本縣
宮崎縣　鹿兒島縣　沖繩縣
第八節　北海道　一五九
渡島後志及び膽振國　石狩國　日高國　天鹽國
北見國　十勝國　釧路國　根室國　千島國
第九節　臺灣　一七二
北部地方　西部地方　南部地方　東部地方



地理教科書卷一

第一編　緒論

理學士　脇水鐵五郎著

地球　我が地球は其の名の如く球形にして、獨樂に軸ある と同じく、地球も一つの假想軸に由りて、日々西より東に回るなり。此の軸を地軸といふ。

地軸の兩端は、極と稱へて、北に在るを北極といひ、南に在るを南極といふ。此の南北の

兩極より測りて、中央の處を連ねたる線を赤道といふ。故に赤道は地球を南北の半球に折半する最大圏なり。

赤道に平行して畫きたる圓線を緯線といふ。故に赤道より數へて、北極若しくは南極に至り、赤道の北に在る部分を北緯何度といひ、南に在る部分を南緯何度といひ、各九十度に至る。又赤道及び緯線と直角に交りて、兩極を連ねたる縱の線を經線（子午線ともいふ）といふ。從來經線の數へ方は、各國各自にて其の起點を定めたりしが、明治十八年、萬國會議の時、英國のグリンヰッチ天文臺を通ずる子午線を以て、起點卽ち本初子午線と定められたり。されば此の天文臺より、西に數へて百八十度に至るまでを西經といひ、東に數へて百八十度に至るまでを東經といふ。此の經緯線は、只地球表面の各地の位置を定めんが爲めに設けたるの線にして、實際地球の表面

に、是等の線あるには非ざるなり。

地球の大きさ　以上述べたる經線一度の長さは、我が國の凡そ二十八里八町（百十一粁（キロメートル））にして、赤道周圍の長さは、凡そ一萬二百三里二十六町餘（四萬七十粁（キロメートル））なり。又赤道の直徑は、三千二百四十七里餘（二萬二千七百五十五粁）にして、地球の面積は、凡そ二千三百萬方里（五億一千萬方粁）なりといふ。然れども學問上の尺度は、普通我が國の里法に由らずして、メートル法を用ふ。メートル法の組立は左の如し。

一粍（ミリメートル）　一メートルノ千分ノ一
一糎（センチメートル）　一メートルノ百分ノ一
一粉（デシメートル）　一メートルノ十分ノ一
一米（メートル）（三尺三寸）
一料（デカメートル）　一メートルノ十倍

一粁（キロメートル）　一メートルノ千倍

地球表面に於ける溫度　我が地球は、內部に於ては熱を保有すと雖も、其の表面に於ける熱は、總べて太陽より受くる光熱に由るものなり。光熱を受くること多ければ熱く、少ければ寒し、是等の寒熱を計るものを寒暖計と稱す。寒暖計には、華氏・攝氏・列氏の三種ありて、普通には、華氏の寒暖計を用ふれども、學問上其の他醫術上には、多く攝氏の寒暖計を使用す。

三帶　地球上にて最も熱き處は、赤道近傍なり、故に赤道より、南北緯各二十三度半に至るまでを、熱帶地方と稱す。此の地方に隣れる南北の部分は、稍溫和なる地方なり、故に南北緯各二十三度半より、六十六度半に至るまでを溫帶地方と

稱す。溫帶地方より兩極に至るまでの間は、太陽の光熱を受くること、甚だ弱きを以て寒冷なり、故に此の部分を寒帶地方と稱す。されば地球上には、寒・溫・熱の三帶ありて、其の寒溫二帶は、南北に各一帶あるが故に、總べて之を五帶と稱す。然れども實際の寒熱は、種々の事柄に由りて、各地一定せず。

地球の運動　吾人若し汽車に乘りて旅行するときは、己の進むを覺えずして、却つて山・河・原野等の後進するが如く見ゆると同じく、我が地球は、全く靜止して、反つて太陽の東より西へ運動するが如く見ゆるも、其の實地球は、二樣の運動を爲すなり。則ち一は、地球自ら地軸に由りて、西より東へ一日中に一回回る運動にして、之を自轉といひ、一は、地球が自轉しつゝ、更に一年間に一回太陽の周圍を回る運動にして、之を公轉といふ。公轉の際に、地球の天空を經過する道筋

を軌道と名づく。

晝夜　地球の自轉する際には、必ず太陽に面する處と面せざる處とあり。其の太陽に面する方を晝といひ、其の面せざる方を夜といふ。

四季　地軸は軌道に直角をなさずして、斜に傾くを以て、一年の間に、太陽の、赤道の南を直射する時と、北を直射する時とあり。之に由りて各地に氣候の寒暖を生ず、是四季の起る所以なり。

曆　年・月・日の計算は、曆に依るものなるが、曆には大陰曆と太陽曆との二種あり、大陰曆とは、月の地球を一周する時日を基として編みたるものにして、維新前まで、我が國にて用ひし所のもの是なり。今日にても、農家にては尙私に之を用ふる處あり。太陽曆とは、地球が太陽を一周する時日を基と

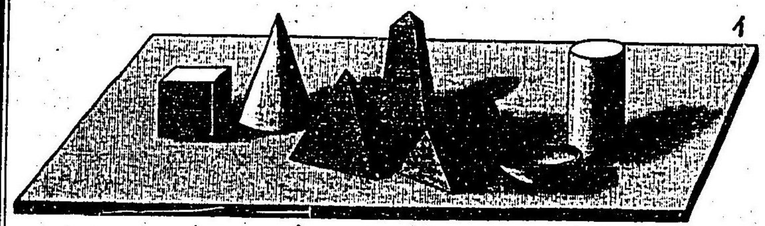
して作れるものなり。此の曆は、方今我が國一般に使用するものにして、平年を三百六十五日とし、閏年を三百六十六日とす。

陸　地球の表面は、陸と水とより成りて、其の水に被はれざる處を陸地といひ、陸の大なるものを大陸といふ。又陸地の小なるものを島といひ、尙小なるものを嶼といふ。島嶼には、孤島・群島・列島等あり。

六大洲　大陸には、東西兩大陸ありて、東大陸は、亞細亞・歐羅巴・亞非利加の三大洲に分れ、西大陸は、南北亞米利加の二大洲に分る。此の五大洲に太洋洲を加へて、六大洲と稱するなり。

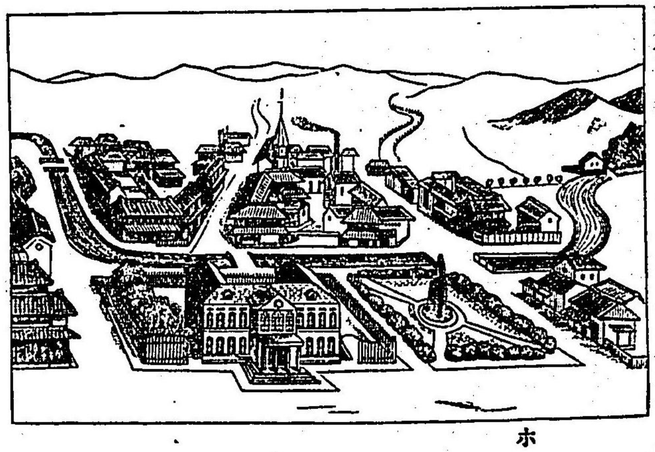
五大洋　六大洲及び島嶼を除くの外は、悉く海水を以て被はる。海水は、互に連續するものにして、其の廣きものを大洋

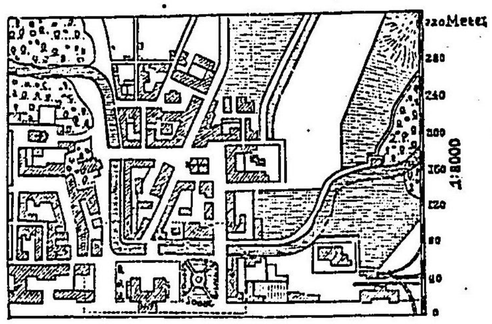
といひ、狹きものを海といふ。大洋には、太平洋・大西洋・印度洋・南氷洋・北氷洋あり、海には、日本海・支那海等あり。



地圖及び地形圖

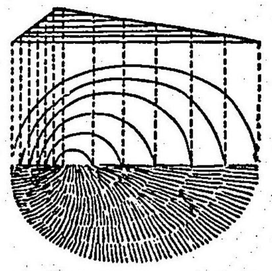
以上述べたる陸地の表面の貌は、種々にして、或は高き處あり、或は低き處あり、或は平野あり、山岳あり、高臺あり、丘陵あり、河あり、湖ありて、實に複雜なり。故に之を圖上に顯すことは甚だ困難なり。今イ圖の如く、種々の形體を机上に置き、之を側より見るときは、正にロ圖の如くなるべし。若し又イ圖の形體を上より見





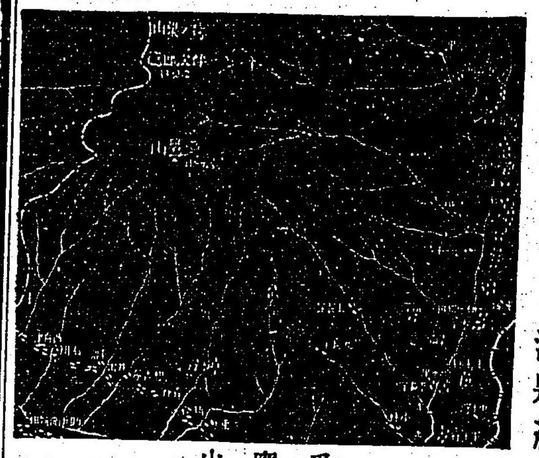
下し其の大きさを縮めたるものとするときは、正にハ圖の如くなるべし。故にニ圖を上より見下せるものとせば、正にホ圖の如くなるべし。

此くの如くにして、山河・都府の位置を示すものを地圖といふ。然れども是のみにては、土地の高低を示すこと猶難し。故に之を顯すには、線を以てするものと、暈溺（ケバ）を用ふるものとあり。線を以て



暈滃に て顯せるもの

顯す法は、例へば海面より高サ十メートルを增す毎に、平面を假想し、此等の平面と地面との切り合ふ線を引きて、地形を現すに在り、此線を波狀線と名く、斯くすれば、其の波狀線の數に由りて其の高さを知り、且波狀線の密に相接する處は、傾斜急にして、疎なる處は、傾斜の緩なるを知り得るに由り、十分に地形を圖上に示すことを得るなり。又暈滃を以て顯す法は、圖に示すが如く、其の暈滃の短く濃きは丘の險しきを示し、長くして、薄きは、其の傾きの緩やか



愛鷹山
波狀線にて顯せるもの

なるを示すなり。

地形の名稱　地形の名稱は、種々ありて、海面よりの高さに依り、低地・高原・丘陵・山岳等の名あり。其の山岳の連續せるものを山脈といひ、山脈の集れるものを山系と稱し、又山岳の群集せるを山群と云ふ。而して陸地の一部の、海中に突出せるを岬(崎)といひ、又陸地が一部分を除く外、悉く海水に圍まるるものを半島といふ。又海水の一部の、陸地に進入したる處を灣といひ、灣にして、船舶の安全に碇泊し得らるる處を港といふ。

地球上の住民及び人種　地球上に棲息する人民の總數は、凡そ十五億餘にして、其の皮膚・毛髮及び頭骨の形狀等に依りて、之を五種に大別するを得べし。卽ち

蒙古人種(黃色人種)	(亞細亞大部・歐羅巴北東部及び南東部・北亞米利加北部)	五億四千萬
亞米利加人種(銅色人種)	(北亞米利加・南亞米利加中央部)	二千二百萬
高加索人種(白色人種)	(歐羅巴・亞非利加北部・濠洲・北亞米利加大部・南亞米利加沿岸・亞細亞南部)	七億七千萬
亞非利加人種(黑色人種)	(亞非利加・北亞米利加南部等)	一億七千三百萬
馬來人種(褐色人種)	(馬來半島及び馬來群島)	二百萬

以上は、唯大別に過ぎず、其の細別に至りては、種族非常に多し。

宗教　人種の多きに伴ひて、其の宗教も亦種々あり、其の主なるものを擧ぐれば、佛教・婆羅門教・耶蘇教・回教・猶太教等なり。未開の人種に於ては、今尙水火を禮拜するものなきに非ず。右の內、佛教は、日本・支那・朝鮮及び亞細亞南東部の人民之

を信じ、其の教徒は殆と四億萬人に達すといふ。耶蘇教には、舊教・新教・希臘教の三大別ありて、其の中に數多の小分派あり、主に歐羅巴・亞米利加の人民之を信じ、其の信徒の數殆と佛教徒に亞ぐ。

國家及び政體　凡そ單獨孤立は、人類の性質に非ざるを以て、終に集合して、一の國家を生じ、又主權者の國家を治むる方法に依りて、政體の差異を生ず。故に國體と政體とは、全く異なるものなりとす。現今世界の政體には、君主制度・共和制度の二種あり、君主制度とは、君主上に在りて、一國を治むるものにして、其の中に專制政體・立憲政體の二樣あり。專制政體とは、主權者の獨裁を以て行ふものにして、立憲政體とは、憲法の如きものを設けて、

主權を行ふものなり。又共和制度とは、國民の選擧したる代議士、主として國政を議するものにして、其の主權は、同じく國民の推擧したる大統領に在り。

言語　世界各國、人情・風俗・政體等の異なると共に、言語も亦各異なれども、要するに、一は、單音にして全く變化なきものと、一は、變化に富みたるものとの二種あり。日本語・支那語・印度語等は、前者に屬し、英語・露語・獨逸語・西班牙語・佛蘭西語・伊太利語は、後者に屬す。以上の中にて、商業上に最多く使用せらるるは英語にして、交際上廣く使用せらるるは、佛蘭西語なりとす。

第二編　日本地誌

第一章　總論

第一節　位置

境界　大日本帝國は、亞細亞洲の東方太平洋の北西隅に位する島國なり。北緯二一度四五分より、一五六度三二分に達す。南・東は、太平洋に面し、西・北は、オコーツク海・日本海・支那海を隔てて、露領西比利亞・朝鮮(韓)・支那(清)に對す。又南西の一端は、海を隔てて、米領フィリッピン群島に向へり。

廣袤　此の帝國は、大小五百有餘の島嶼より成り、其の大なるものは、本州・蝦夷(北海道)・四國・九州及び臺灣の五つにして、其の他千島・琉球等の小群島之に附帶す。此等の諸島は、北東より南西に延長し、其の幅は、廣き所も五十里を出でずと雖

も、其の全長は、一千二百餘里に及び、面積二萬七千六十二方里を有す、而して五大島の面積は、左の如し。

本州、一萬五千二百六十方里餘。　九州、二千三百八十方里餘。
四國、一千二百二十七方里餘。　蝦夷、五千九百八十七方里餘。
臺灣、二千二百六十方里餘。

即ち本州は、最も大にして、殆と全國の半を占め、蝦夷は、本州の二分の一に當り、四國は、最も少にして、本州の十分の一に過ぎず。

第二節　地勢

海岸　我が國は、上述の如く、許多の島嶼より成り、且港灣・半島等の出入多きを以て、海岸の延長、實に七千四百里に餘り、面積に比較して著しく長きは、世界中、多く其の比を見ざる所なり、中に就き海岸線の比較的最も長きは九州にして、本

州・四國、順次之に次ぎ、北海道及び臺灣は、以上三島に比して、著しく短し。

尙詳に我が國沿岸の狀態を視るに、大體に於て、太平洋沿岸と日本海沿岸との間に、大なる差あり。日本海沿岸には、絶壁多くして、出入少く、近海に島嶼稀なるに反して、太平洋沿岸には、出入繁く、近海に島嶼多し、瀨戸內海及び支那東海の沿岸は、其の性質、太平洋沿岸に似て、殊に港灣と島嶼とに富めり。オコーック海沿岸と臺灣の沿岸とは、共に屈曲少く、從つて良港に乏し。

山誌　日本群島の大勢を觀るに、北東より南西に延びたる一條の細長き山脈の頂部が、水面に隱見出沒するが如き狀あり、故に山脈の方向は、大概地形に並行す。而して全體に於て、三弧を畫き、琉球諸島及び薩隅諸島は、其の南弧を成し、九

州・四國及び本州の三島は、中弧を成し、千島列島は、北弧を成し、而して臺灣は、別に一弧を成す。

蝦夷に於ては、樺太より來れる山脈、島の中央を南北に貫き、謂はゆる蝦夷山脈となるあり。臺灣に於ては、新高及びシルビア山脈の南北に縱走するあり。九州に於ては、山脈南北二脈ありて、何れも支那崑崙山系の餘波なり、而して其の南部の脈は海を越え、四國島に入りて、更に本州に進み、其の北部の脈も、亦海を越え、本州に入りて、中國山脈となり、四國山脈より來るものと共に東進して、本州の中央部に達せり。又北方蝦夷より入りたる脈は、東海岸に沿ひて、北上山脈となり、更に阿武隈山脈となりて、終に南西部より來れる山脈と合し、關東山脈・赤石山脈・木曾山脈・飛騨山脈等となり、以て本州中央部の高隆地をなす。

此の高隆地の中央に、富士山を始めとして、多くの火山、南北に列坐し、其脈引いて伊豆七島となり、終に火山列島に至る、之を富士火山脈と稱す。此の火山脈を境として、我が國の南部と北部とは、地形・氣候・人情・風俗等の大に異なるを見る。依つて吾人は、此の脈を境として、南日本及び北日本を區別す。人文上、關東と其の以西の諸國とを區別する箱根の山も、亦此の火山脈中に在り。

富士火山脈の外、我が國には、猶火山甚だ多く、北日本に在りては、那須火山脈及び鳥海火山脈となりて、蝦夷西部の膽振火山脈に連續し、尙西部に寒風火山脈あり。南日本に在りては、飛騨・信濃の國境に乘鞍火山脈あり。白山火山脈は、加賀越前の南邊より、日本海岸に沿ひて、九州の北部に至り、阿蘇火山脈は、九州の中部より、瀨戸內海に及ぶ。而して別に千島列

島より、蝦夷島の東部に通じて、千島火山脈あり。又九州の南部より、川邊七島を經て、臺灣の北部に亘りて、霧島及び大屯火山脈あり、此等の外にも、尚火山少しとせず。故に我が國は、古へより火山の爲めに不時の災害を被りしこと多く、近年にては、磐梯山・吾妻山・沼尻山・鳥島等の破裂の實例あり。

水誌　既に述べたる如く、我が國の山脈は、各島を縦貫して、自ら分水界を爲し、河川は、大抵此等の山脈の兩側を流るる故に、我が國には、大河長流と稱するもの稀なり。先づ本州の北日本に屬する部に於ては、略那須火山脈に併走する分水山脈を境界として、其の東部に在る諸川は、太平洋に注ぎ、西部に在る諸川は、日本海に注ぐ。利根川・北上川・阿武隈川等は、前者の主なるものにして、信濃川・阿賀川・最上川等は、後者の主なるものなり。南日本に於ける本州諸川は、飛驒山脈・中國

山脈等を界として、太平洋・日本海及び瀬戸内海に注ぐ、其の主なるものを擧ぐれば、木曾川・天龍川・富士川等は、太平洋に注ぎ、淀川は瀬戸内海に、江川は、日本海に入る。四國に於ては、分水山脈、北岸に偏して、東西に走り、吉野川・渡川等の主なる川は、太平洋に注入す。九州に於ては、略南北に走れる南部九州山脈等を分界として、瀬戸内海・太平洋・日本海・東海等に注ぎ、臺灣に於ては、分水界東岸に偏し、中央の山脈より發する川は、大抵西の海に入る。蝦夷の諸川は、蝦夷山脈を境界として、東はオコーック海及び太平洋に、西は日本海及び太平洋に注入す、石狩川・天鹽川等の大流は、共に後者に屬す。

さて各島の諸川中には、運輸交通及び灌漑の利を有するもの少からず、又其の主なる諸川の附近には、大抵地味肥沃の大平野ありて、耕作に適せり、平野の主なるものは、利根川の

下流なる關東平野、木曾川の下流なる、濃尾平野、信濃川の越後平野、淀川の大阪平野、石狩川の石狩平野等なり。

本州 { 太平洋方面 / 內海方面……淀川・東大川・西大川・大川・大田川等 / 日本海方面 }

四國　太平洋方面　吉野川・四萬十川（或は渡川）・仁淀川等

九州 { 東海方面　球摩川・筑後川等 / 內海方面　大分川等 / 太平洋方面　五箇瀨川・大淀川等 }

臺灣　支那海……淡水河・大甲溪・大肚溪・濁水溪等

蝦夷島 { 太平洋方面　釧路川・十勝川等 / 日本海方面　天鹽川・石狩川等 }

湖沼　湖沼は、其の數甚だ多く、種類も亦尠からざれども、大

なるものは甚だ稀なり。琵琶湖は、周圍凡そ六十里にして、本州第一と稱せられ、霞浦之に次ぎて、周圍凡そ三十六里あり、湖水も、亦川と同じく、便益を與ふること多し。

第三節　氣候

溫度　我が國は、概ね溫帶に位し、且四面海に圍まるるを以て、氣候大抵溫和にして、全國年中の平均は、五十四五度なり。されど地形狹長にして、其の北端は、寒帶に近く、南端は、熱帶に入るが故に、一方は寒氣稍强く、一方は暖熱なり、從つて其の兩端に於ける溫度の差、頗る大なり。又北方は、南方に於けるよりも寒暑の差、一般に大なり。

今各大島に就きて、其の溫度を檢するに、臺灣は、其の南端既に熱帶に入るを以て、炎熱燒くが如き土地なるべしと思はるれど、其の最高溫度は、三十五六度、最低溫度は、五六度にし

て、其の平均溫度は二十三四度に過ぎず。之を餘の大島に比較すれば、暑氣長時間に亘れども、堪へ難き程には非ざるなり。九州及び四國地方は、最高溫度は、臺灣地方と同位に達すれども、平均溫度は、十五六度位にして、臺灣地方よりは、遙かに溫和なりとす。

本州に於ては、太平洋に面する大部及び瀨戸內海に面する部は、寒暑共に九州、四國地方より稍低位に在りて、氣候宜しきを得れども、日本海に面する部分及び太平洋に面する北方の一部は、稍寒冷なり。又中央の高地は、一層溫度低くして、寒暑の差も亦大なり。

蝦夷は、五大島中、最北に位するが故に、一般に寒冷にして、且寒暑の差、甚だし。其の最低溫度は、零下二十一度に達し、最高溫度は、三十一二度にして、平均溫度は、零下數度に在り。而し

て東岸及び中央の高地は、寒氣殊に烈しきを覺ゆ。然れども之を同緯度の西比利亞地方に比すれば、尙溫和なりとす。

海流　我が國の近海には、寒暖の二流あり、暖流は、南方赤道附近に起り、臺灣島の東を過ぎ、琉球諸島の中部にて二派となり、主派は、謂はゆる黑潮と稱するものとなりて、九州の南東、四國及び本州の南方を過ぎ、北に折れて、本州東岸の一部を洗ひ、更に北東方に轉じ、遠く北米に向つて流れ去る。之を日本海流と稱す。分派は、九州の西岸を過ぎて、日本海に入り、更に蝦夷の北方を過ぎて、オコーツク海に入る。寒流は、オコーツク海の北方に起り、南流して、千島及び蝦夷の東南岸より、三陸の東岸を洗ひて、暖流の下に入り、形跡を失ふ。之を親潮と云ふ。此の外に又樺太海流の、オコーツク海より來りて、日本海に入るあり。凡そ海流は、其の通過する附近の地方の

溫度等に、著しく影響を及すものなれば、是等の海流が、我が國各地方の溫度に關係を有することは、亦甚だ大なり。

雨量　我が國は、四面海を環らし、山脈、島の中央を走りて、海風を遮るが故に、一般に、降雨多く、中にも六月及び九月を最も多雨の月とす。又日本海に瀕する方面は、概ね冬季に雨雪多く、太平洋に面する部は、夏季に雨多し。全國中、雨量の多き所は、臺灣の北部、九州の南東部、四國の南部及び紀伊半島、日本海沿岸の中部にして、少き所は、瀨戸內海の沿岸、本州の中央部及び北東の一部、蝦夷島の東部なりとす。而して降雨の多少も、亦生產に影響を及すものなり。又日本海沿岸の中央部は、冬季降雪多きを以て有名なり。

風　我が國の主なる風は、北西風及び南東風にして、北西風は、冬季に多く、南東風は、夏季に多し、然れども地方に由りて、

多少異なりとす。又三月及び九月頃、氣候の變化する際には、暴風の襲來するを常とす、殊に九月の初め頃、卽ち陰曆の二百十日前後の暴風は、强烈なるものにして、農家の甚だ恐るる所なり、此の風は概ねフィリッピン群島の南東方に起り、北東に進行し、九州、四國、本州を掠めて、北海道に達す。

第四節　天產物

我が國の位置は、南北に長く連なりて、寒地より熱地に及べるが故に、よく各般の氣候に應ずる動植物を產出す。

動物　動物中、獸類には、馬、牛、豚等の家畜を始めとして、猪、猿、兎、狐等の野獸、鯨、臘虎（オットセイ）、腦肭獸（アヒル）等の海獸あり。猛獸は、甚だ少く、僅に熊、豺、狼の二三種あるのみ。鳥類には、鷄、鶩（アヒル）の家禽を始めとして、鷹、鷲、雉、烏、鳶等の野鳥あり。魚類に至りては、我が近海は、世界中有名の產出地にして、鮭、鰊（ニシン）、鰮（イワシ）等を始めとし、鰹（カツオ）、鮪等

を最も多く産出す。其の他烏賊・鯛等の産出も、亦尠からず。

植物　植物には、松・杉・檜（ヒノキナヤキ）・欅等の有用材を始めとして、椰子（ヤシ）・鳳梨（ナス）等に至るまで、熱帶・溫帶・寒帶の産、共に備れり。又稻・麥等の五穀繁茂し、甘藷・煙草・甘蔗等の生育盛なり。

鑛物　鑛物には、金・銀・銅・鐵等を始めとして、石炭・硫黄・アンチモニー・石油・陶土等あり。金・銀・鐵は、其の量餘り多からざれど、石炭及び銅の産額多きは、喜ぶべし。又アンチモニー及び硫黄は、我が國を以て、世界屈指の産地とす。

第五節　住民

種族　我が國の住民は、蒙古人種・馬來人種の二より成れり。蒙古人種は、大別して、之を三種族となすを得べし、天孫種族・アイヌ種族・支那種族是なり。馬來人種は、二族に分る、生蕃及び熟蕃是なり。天孫種族は、帝國中到る處に住し、我が國人口

の大部を占む。アイヌ種族は、北海道（蝦夷及び千島）に住し、支那種族及び生蕃・熟蕃は、共に臺灣に住す。是等の各種族は、皆多少、言語・風俗を異にし、中にもアイヌ種族及び生蕃・熟蕃は、共に未開の種族たり。而してアイヌは、性柔順なれども、生蕃は、甚だ獰惡なり。是等の各種より成れる我が國住民の總數は、殆と、四千七百萬にして、之を各種族に配當すれば、左の如し。

天孫種族	四千四百餘萬
アイヌ種族	一萬七千餘
支那種族	二百七十餘萬
生蕃・熟蕃	八萬餘

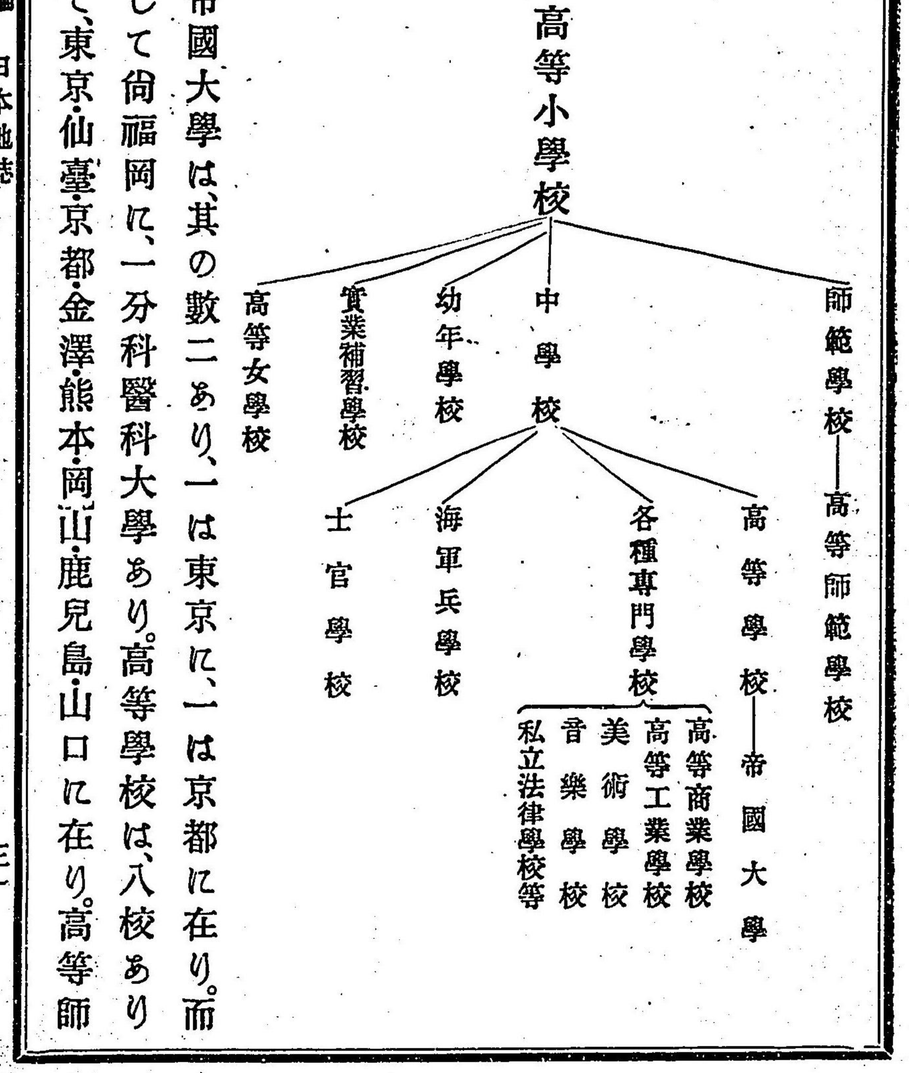
而して五大島中、最も人口の密なるは、四國にして、最も疎なるは、蝦夷とす、左表を見るべし。

本州	一方里內人口	平均二千三百十人

教育　維新後我が國教育の發達は、非常に著しく、今や約二萬七千の小學校ありて、如何なる邊鄙の地と雖も、普通教育を授くる道を啓けり。又各地に、師範學校・中學校・高等女學校・幼年學校等あるを以て、小學を卒業したるものは、此等の中等學校を經て、順次高等の學校に教育を受くるを得るなり。

各學校の連絡左の如し

四國	二千四百八十五人
九州	二千四百零四人
沖繩	二千九百四十六人
蝦夷	一百三十八人
臺灣	一千一百七十二人
同	同
同	同
同	同
同	同
同	同



帝國大學は、其の數二あり、一は東京に、一は京都に在り。而して、尚福岡に、一分科醫科大學あり。高等學校は、八校あり、東京・仙臺・京都・金澤・熊本・岡山・鹿兒島・山口に在り。高等師

範學校は、男女合はせて三校、東京及び廣島に在り。其の他東京には、高等商業學校・高等工業學校・士官學校・中央幼年學校・學習院・華族女學校を始めとし、各種の學校甚だ多く、圖書館・博物館等、之を助くる設備も略整ひ、敎育機關、殆と備らざることなし。

宗敎 我が國に行はるる宗敎は、神道・佛敎・基督敎の三敎とす。

神道は、十二派に分れ、其の信徒の信仰する神祇を祀れる神社は、到る處に在りて、其の數殆と二十萬に達せり。

佛敎は、我が國にて最も盛なる宗敎にして、十二宗四十餘派に分れ、之に屬する寺院の數、七萬餘あり。其の中眞宗最も盛にして、曹洞宗・眞言宗之に次ぎ、法相・華嚴は、最も微々たり。

基督敎は、德川時代に於て嚴禁せられしものなれば、信敎の

自由確立せし以來、日尙淺き今日に於て、未だ隆盛と謂ふに至らず。基督敎にも、新敎・舊敎・希臘敎の三派ありて、之に屬する分派多し。

第六節　政治

國體　我が國は、君主國にして、開闢以來、二千五百有餘年の間、常に萬世一系の　天皇上に在りて、之を統治し給へり。是實に萬國に其の比を見ざるめでたき國體と云ふべし。

政體　我が國の政體は、明治二十二年、帝國憲法を發布せられしより、純然たる立憲政體となれり。今謹んで之を案ずるに、天皇は、國の元首として、立法・行政・司法の大權を總攬し、憲法の條規に由りて、之を行ひ給ふ。

立法部は、帝國議會にして、貴族院と衆議院とより成り、法律・豫算等を審議する處なり。貴族院は、皇族・華族・勅選議員及び

多額納稅議員より成り、衆議院は、國民の選擧する議員より成る。而して議員又は政府より出したる立案の、議會に於て可決したるものは、天皇の裁可を經て、公布執行せらる。行政部は、內閣及び外務・內務・大藏・陸軍・海軍・司法・文部・農商務・遞信の九省と、其の下に屬する各地方廳となり。內閣は、各省の大臣を以て組織し、其の首班として、內閣總理大臣あり。各省は、大臣の下に、總務長官・局長等ありて、全國行政の事務を統轄し、地方廳は、各府縣知事之が長官として、其の下に、郡・市及び町・村長等あり、以て地方行政の事務を處理す。此の他北海道には、長官を置き、臺灣には、總督府を置きて、全島を統轄せしむ。

司法部には、大審院・控訴院・地方裁判所・區裁判所の四階級ありて、共に訟を聽き、以て國法を明かにす。尙別に行政裁判所

ありて、行政官廳の違法處分に關する訟を處斷す。

以上の外、宮內省を置きて、專ら帝室の事を司らしめ、樞密院を設けて、天皇の諮問府とし、又會計檢査院を設けて、財務を監督せしむ。

區劃　我が國は、古へ行政上、土地を畿・道に分ち、再び之を國に分ちしが、其の數現今にては、一畿・八道・八十五國と、外に臺灣とあり。此の區劃は、今や行政上、殆と何等の意味もなけれども、歷史上若しくは習慣上、其の關係頗る大なれば、地理を學ぶものは、決して之を等閑にすべからず。左に畿・道の名と、之に屬する國の名とを示すべし。

畿　內五國　山城・攝津・和泉・河內・大和

東海道十五國　伊賀・伊勢・志摩・尾張・三河・遠江・駿河・甲斐・伊豆・相模・武藏・下總・上總・安房・常陸

東山道十三國　近江・美濃・飛驒・信濃・上野・下野・磐城・岩代・陸前・陸中・陸奥・羽後・羽前

北陸道七國　若狹・越前・加賀・能登・越中・越後・佐渡
山陰道八國　丹波・丹後・但馬・因幡・伯耆・隱岐・出雲・石見
山陽道八國　播磨・美作・備前・備中・備後・安藝・周防・長門
南海道六國　紀伊・淡路・阿波・讃岐・伊豫・土佐
西海道十二國　豐前・豐後・日向・筑前・筑後・壹岐・對馬・肥前・肥後・薩摩・大隅・琉球
北海道十一國　渡島・後志・膽振・石狩・天鹽・北見・日高・十勝・釧路・根室・千島
臺灣

附記、東山道の北東部を奥州と云ひ、西部を中仙道と云ひ、畿內と其の附近とを合はせて、畿內地方と云ひ、山陰山陽の大部を中國と云ふ。

現今は、行政上北海道と臺灣とを除き、三府四十三縣と成す。府縣の下に、郡及び市あり、郡の下に町村あり。北海道には、北海道廳を置き、其の下に十九支廳を設けて、之を分管せり。

臺灣には、臺灣總督府を置き、其の下に二十廳を設けて、臺灣全島及び附近の島嶼を分掌す。

左に、府縣廳名及び其の所在地を示す、

關東八州

東京府　東京市
神奈川縣　横濱市
埼玉縣　浦和町
千葉縣　千葉町
茨城縣　水戸市
栃木縣　宇都宮市
群馬縣　前橋市

奥羽

福島縣　福島町
宮城縣　仙臺市
岩手縣　盛岡市
青森縣　青森市
秋田縣　秋田市
山形縣　山形市

本州中部

新潟縣　新潟市
長野縣　長野市
山梨縣　山梨市
靜岡縣　靜岡市
愛知縣　名古屋市
岐阜縣　岐阜市

富山縣　富山市
石川縣　金澤市

近畿地方

福井縣　福井市
滋賀縣　大津市
京都府　京都市
三重縣　津　市
奈良縣　奈良市
和歌山縣　和歌山市
大阪府　大阪市
兵庫縣　神戸市

中國

岡山縣　岡山市

廣島縣	廣島市
山口縣	山口町
島根縣	松江市
鳥取縣	鳥取市
四國	
香川縣	高松市
德島縣	德島市
高知縣	高知市
愛媛縣	松山市
九州	
大分縣	大分町
福岡縣	福岡市
佐賀縣	佐賀市

長崎縣	長崎市
熊本縣	熊本市
宮崎縣	宮崎町
鹿兒島縣	鹿兒島市
沖繩縣	那覇區
北海道	
北海道廳	札幌區
臺灣	
總督府	臺北

兵備　我が國の兵備は、陸軍及び海軍より成り、大元帥陛下之を統率し給ふ。帝國の臣民にして、男子たるものは、滿十七歲より滿四十歲に至るまで、總べて兵役に服するの義務あり。兵役の種類は、常備・後備・補充・國民の四類にして、常備役

は、現役・豫備役の二に分れ、補充役・國民役は、共に第一・第二の二種に分る。猶此の外に、警備隊あり。

兵役の種類及び年限

- 常備兵役
  - 現役
    - (陸軍)三年
    - (海軍)四年
  - 豫備役
    - (陸軍)四年四箇月
    - (海軍)三年
- 後備兵役……五年
- 補充兵役
  - 陸軍
    - 第一補充兵役　七年五箇月
    - 第二補充兵役　一年四箇月
  - 海軍……一年
- 國民兵役
  - 第一國民兵
  - 第二國民兵

陸軍軍人の總員は、常備・後備を併せて、約ね三十三萬、海軍軍人は、約ね二萬五千あり。

陸軍は、全國を十二師管に分ち、各師管の下に數多の聯隊區あり。其の他島地には、警備隊區を置き、要害の地には、要塞砲兵を置き、臺灣には、混成三箇旅團を派遣して、之を守る。師管の上に、三都督部ありて、全師管を分掌し、又此の外に近衞師團あり。陸軍の兵種は、步・騎・砲・工・輜重の五種にして、別に憲兵あり。

師團所在地

近衞……東京　第一……東京　第二……仙臺　第三……名古屋　第四……大阪　第五……廣島　第六……熊本　第七……旭川　第八……弘前　第九……金澤　第十……姫路　第十一……丸龜　第十二……小倉

又參謀本部を置きて、國防及び用兵の事を掌らしめ、教育總監部を置きて、陸軍教育の斉一進歩を圖らしむ。

海軍は、全國の海岸海面を五區に分ち、横須賀・吳・佐世保・舞鶴・室蘭の五軍港ありて、之を管す。軍港には、鎭守府ありて、海兵團を訓練し、又所屬の艦隊ありて、管内を警戒す。但し室蘭には、未だ鎭守府なきを以て、其の管内は横須賀の鎭守府、之を分管せり。又海軍軍令部を置きて、國防及び用兵に關する事を掌らしむ。而して我が國の軍艦は、戰鬪艦・巡洋艦・海防艦・驅逐艦・砲艦等を合はせて、七十一艘にして、其の排水量二十五萬一千七百餘噸に達し、水雷艇は、四十九艘にして、其の排水量三千九百餘噸に達せり。

第七節　生業

農業　瑞穗國の稱ある我が國は、古來農を以て國の本となしたれば、今に至りても、農夫猶國民の最多數を占めたり。其の生産物は、米穀を第一とし、蔬菜・甘蔗・絹・茶等の如き日常生活上必要なる物品の原料は、皆之を農家に仰ぐ。

米の收穫は、年に由りて異なれども、概ね四千萬石にして、新潟縣最も多く産し、兵庫・愛知・福岡の諸縣之に次ぐ。されど其の質の良きは、熊本・滋賀・岐阜の諸縣なり。麥の收穫は、凡そ二千萬石にして、埼玉縣最も多く産し、茨城・愛知等の諸縣之に次ぐ。養蠶に從事するものは、東山道の諸國に多く、殊に長野縣最も盛にして、群馬縣之に次ぐ。砂糖の製造は、香川・鹿兒島の二縣最も多く、臺灣も亦其の名産地なり。茶は、靜岡縣最も多く産し、京都・三重の二縣之に次ぎ、臺灣亦多し。牧畜も、近來肉食開けてより、食用及び搾乳の目的を以て、之を飼養するもの漸々增加せり。現今馬は百五十餘萬頭、牛は百二十餘萬

頭あり、中にも馬は、奥羽地方に多く、牛は中國地方に多く、九州には、牛馬共に多し、中に就きて、鹿兒島を第一とす。

鑛業　我が國は、鑛物に富めりと謂ふには非ざるも、重疊せる山岳の、之を含蓄するもの少からず、從つて鑛業は、近來大に發達せる觀あり。鑛物中其の産額の最も多きものは石炭にして、殆と七百萬噸に上り、其の價二千四百萬圓を超ゆ。銅は、之に次ぎて、製銅額四千萬斤を超え、其の價千四百萬圓に達せり。

石炭は、福岡縣最も多く産し、北海道及び長崎・佐賀の二縣、之に次ぐ。銅の産額は栃木縣を第一とし、秋田・愛媛・岡山等の諸縣、亦多く産す。鐵は、岩手縣を最も多しとす。金は、北海道を第一とし、鹿兒島・新潟の二縣、之に次ぐ。銀は、秋田縣を最も多しとす。其の外愛媛はアンチモニーを、北海道は硫黄を、新潟縣は石油を多く出す。

林業　我が國は、山岳多く、且其の氣候、樹木の繁殖に適するを以て、山林到る處に在り。其の重なる所在地は、本州中部・奥羽地方・近畿地方・九州南東部等にして、其の中木曾の檜林、吉野及び秋田の杉林を以て、日本の三大美林と稱す。

是等の山林は杉・檜・椹（サハラ）等の有要なる木材、及び種々の副産物を生じ、其の他直接間接の利益を與ふること少からず。

現今の林制は、北海道と臺灣とを除き、全國を十六大林區に分ち、國有林の保護栽培等の事務を管せしむ。

水産物　我が國は、地形上、水産の利の大なるは、言を待たず、其の種類に於ても、分量に於ても、世界中、我に匹敵するもの少し。されど從來の漁業は、規模狹小にして、外國密獵船の爲めに、其の利を奪はるるは惜むべし。斯の業の最も盛なるは、

北海道にして、山口・千葉・長崎・靜岡等之に次ぐ。目下の重要水産物は、生物には、鰛を始めとし、鰹・鮭・鯛・烏賊・鮪・鰤等あり、價格各百萬圓以上なり。水産製造物には、搾粕・鰊を始めとし、鰹節・錫・乾鰛等あり、共に價格百萬圓以上に達す。又製鹽は、瀨戸内海沿岸に最も盛なり、其の價格七百萬圓に上れり。

工業　美術國として誇れる我が國は、古來美術的工藝に於て、頗る長足の進歩をなし、夙に精巧の工藝品を出せり。近來泰西の製法に由りて、紡績等の業、大に進歩し、其の他の工業も、年々隆盛に赴く勢あり。

工業品中の主要なるものは、蠶絲・綿絲・各種の織物・製紙・陶器・漆器・酒類等にして、蠶絲は、養蠶業の盛なる長野・群馬・福島・岐阜より多く産し、其の額三千二百萬貫に上る。綿絲は、大阪を始めとして、兵庫・東京等、紡績業の盛なる地より多く産し、織

物の多きは京都・福井・群馬・愛知の諸縣にして、其の額一億七千萬圓に達せり。其の他製紙は高知、陶器は愛知を第一とし、漆器は和歌山、酒類は兵庫より多く産す。

商業　我が國は、古來商人の社會に於ける位置低く、殊に鎖國の政策よりして、一層振はざりしが、一旦外國と通商するに至りて、内外の商業、一時に興り、今や各種の商業機關も略整ひ、其の發達著しきものあり。

内國商業は、東京及び大阪を二大中心地とし、其の外各地の都會名邑に盛なり。

外國商業は、重に舊五港の地に行はる。外國に輸出するものの中、價格の最も多きものは、生絲・綿絲・絹織物・製茶等にて、陶磁器・漆器・美術品等之に次ぐ、而して是等物品の主要なる輸出先は、各同じからず。

輸入品の最も多額なるは、第一繰綿にして、砂糖・鐵・鋼鐵之に次ぎ、其の他反物・麥粉・石油等、種類甚だ多し。此等の物品も、亦各其の來る處を異にせり。

毎年の輸出入は、近頃各二億圓内外に上り、輸入常に超過す。

第八節　交通

道路　道路には、國道・縣道・里道等の別あり。國道とは、伊勢神宮・各府縣廳・各師團本營の間に通ずるものを云ひ、縣道とは、各府縣の市邑間、各師團本營と分營との間に通ずるものを云ひ、里道とは、邑里間の道を云ふ。元來是等の道路は、重に海岸及び河岸に沿ふを常とす。今や我が國の道路は、臺灣・北海道を除き、其の他各島に於ては、稍整頓せるが如しと雖も、未だ、完全の域に達せりと云ふを得ず。

鐵道　鐵道は、本州に於ては、其の西端なる馬關より各要地

を經て、北東端なる青森に至る縱貫線、已に全通せり。日本海岸は北海道の大部分、既に通じ、二條の横斷線は、太平洋岸と日本海岸とを連絡し、其の他枝線、處々に在り。又九州と臺灣とは、縱貫線早晩に通ずべく、北海道と四國との既成鐵道も、漸く擴張すべし。其の既成線の總計は、今已に四千哩に上れり。是等の鐵道中、官設に係るものと私設に係るものとあり。て、私設其の過半を占む。其の重なる線路は、官設には東海道線・奥羽線及び信越線・篠井線・中央線・北陸線・鹿兒島線、私設には上野青森間鐵道・海岸線・兩毛線・日光線・山陽鐵道・九州鐵道・關西鐵道等あり。

航路　我が國は、島國なるが故に、海運の便の大なるは、言ふに及ばず、陸地に於ても、大河大湖多からざれども、小蒸汽船を通ずるを得る河川、少からず。海運業者の主なるものは、日

本郵船株式會社、東洋汽船會社及び、大阪商船株式會社等にして、共に數多の汽船を所有し、內國航路及び外國航路の往復に從事せり。

此の兩會社に屬する主要の航路は、內國の重要なる各港間の諸線、及び支那・朝鮮・西比利亞・歐羅巴・濠太利亞及び北亞米利加に通ずる數條の外國線なり。

郵便・電信等　郵便制度の始めて布かれしは、明治四年にして、同じき十年、萬國郵便聯合會に加入し、今は山間の僻地にも及ばざる所なきに至り、其の局數凡そ四千あり。

電信は、明治二年に始りてより、漸次發達し、今や鐵道線路の及ぶ所は勿論、遍く全國緊要の市邑に架設せられ、其の局數、一千に餘れり。又海底電信線は、國內諸島の連絡の外、支那・朝鮮及び西比利亞にも通ぜり。

電話の架設は、明治十八年に始り、今や東京・大阪等を始めとして、其の他著名なる都會には、概ね交換局の設あり、又長距離電話・自働電話も、架設せられたり。其の他人力車も有要の交通機關とす。

第二章　地方誌

第一節　關東八州

關東八州とは、箱根關以東八箇國を總稱するものにして、東京・神奈川・埼玉・千葉・茨城・栃木・群馬の一府六縣之を分管す。

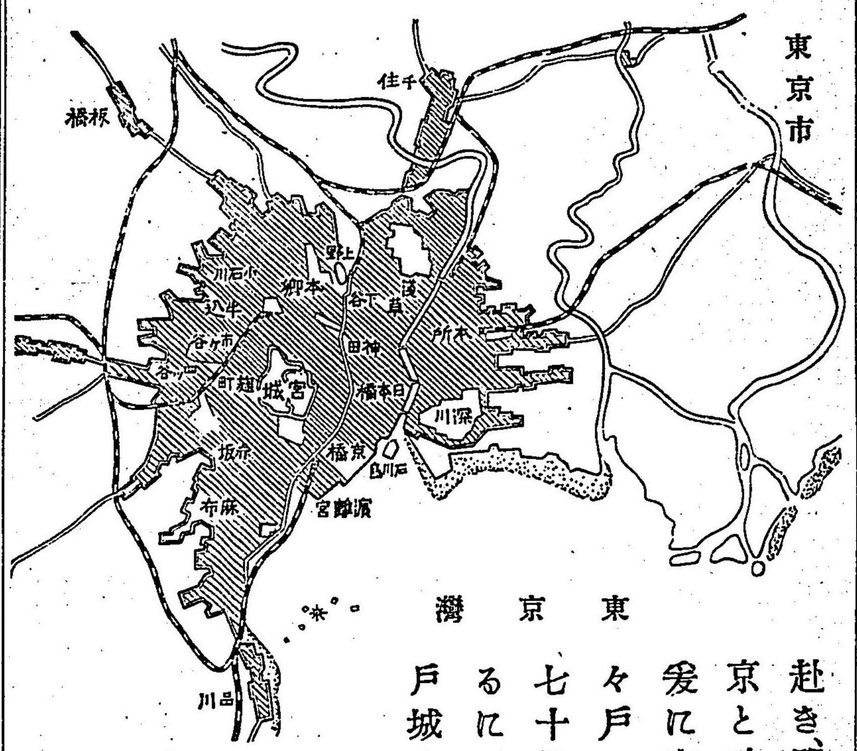
東京府

位置及び地勢

東京府は、武藏の南方に在り、其の區域東西に長くして、西は秩父山地の最高峯なる雲取山より、東は利根川の分流なる江戸川に至り、南東の一部、東京灣に臨めり。土地一般に平野にして、多摩川殆と管内の中部を東西に貫流す。

東京市

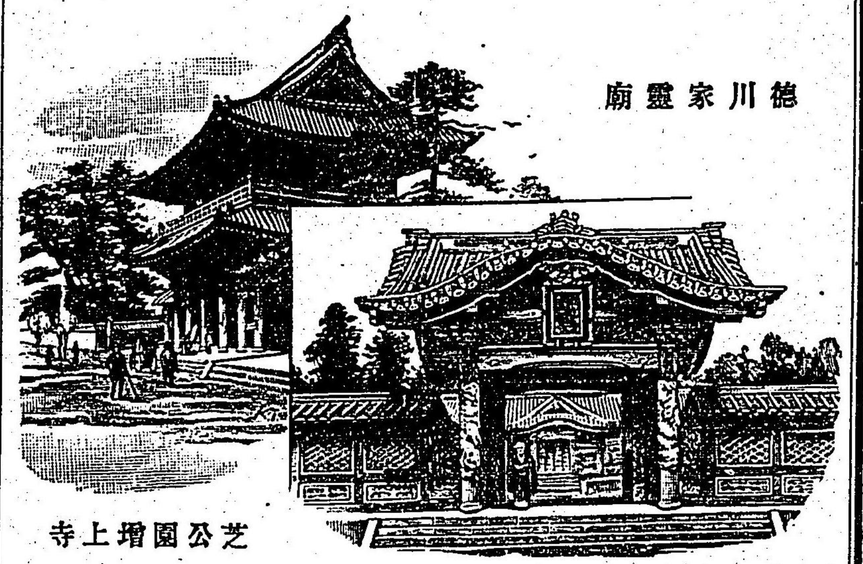
武藏の内一市八郡、及び便宜上、豆南諸島・小笠原島等を管し、府廳は、東京市に在り。東京市は、東京灣頭に在りて、今を距る四百四五十年前、太田道灌始めて城を千代田に築き、其の後德川家康、此に幕府を構へて、江戸と唱へしより、大に繁盛に



東京灣

赴き、明治元年、詔して東京と改め、次いで皇居を爰に定め給ひしより、年々戸口增殖し、現今は、百七十餘萬の人口を有するに至れり。宮城は、舊江戸城を修築せられたるものにして、二重の濠を繞らせり。

此の市は、帝國の首府なれば、諸官省・國會議事堂・外國公使館・其の他



徳川家靈廟

芝公園増上寺

東京帝國大學を初めとして、各種の學校・諸會社・動物園・博物館・圖書館等あり。又名勝古跡に乏しからず、卽ち上野・芝・淺草・日比谷等の公園、高輪泉岳寺、九段坂上の靖國神社、龜戸天滿宮、芝の増上寺、向島・堀切等あり。

市の東部に、隅田川あり、上流を荒川と云ひ、下流東京灣に入る、川に吾妻・兩國・永代等の名橋あり。又市内は、縱横に溝渠の流通ある上に、公私鐵道

の起點なるを以て、謂はゆる四通八達、貨物の集中することの甚だ多く、商業最も盛なり。錦繪・袋物等は、古來より市の名産にして、又七寶器・蒔繪細工・銅器等、各種の美術工藝品少からず。

豆南諸島

豆南諸島は、小笠原列島を除き、富士火山脈に屬する火山島にして、遠く列を成して南海に連なり、分れて三群となる、伊豆七島・小笠原列島、火山列島是なり。

伊豆七島

伊豆七島は最北に在りて大島・利島・新島・神津島・三宅島・御倉島・八丈島なり、住民は、多く漁業、及び農業に從事す。八丈島の婦人は、專ら紡織に從事し、八丈絹の名高し。八丈島と御倉島との間、黑潮の暖流、南西より來りて、北東に流る。

小笠原島

小笠原島は、東京の南に在り、東京を距ること凡そ四百七十海里、聟島・父島・母島の三群島に分る。此の地は、熱帶に近く、鳳梨・椰子・棕櫚・珈琲・

大蝙蝠・蟜龜・信天翁等、暖國産の動物多し。三百年前我が國の版圖に入りしより、內地人次第に移住し、今や住民二千五百餘に達し、警備隊の駐屯所あり。又南洋の一孤島たる南鳥島も、近年我が版圖に編入せられたり。

神奈川縣

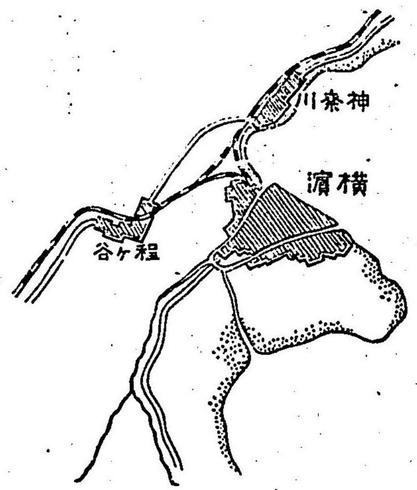
位置及び地勢

神奈川縣は、北は東京府に隣り、西は靜岡・山梨二縣に接し、東は東京灣、南は相模灘に面し、其の間に、三浦半島海中に突出せり。西地は山地にして、大山・足柄山・箱根山等あり。管內馬入・酒匂の二川ありて、皆相模灘に注ぐ。便宜上、武藏の一市・三郡及び相模八郡を管す、縣廳は橫濱市に在り。

橫濱市

橫濱市は、東京を距ること七里半、元寂しき一漁村たりしが、安政六年に開港場となりてより、次第に繁盛となり、爾來僅に四十餘年に過ぎざるに、今や已に十九萬に近き人口を有

橫濱港



し、內外の商船、常に輻湊して、海外貿易の殆と一半は、此の港に於て行はる。漆器・陶器等輸出品の、ここに製造せらるゝもの多し。

管內名所舊跡少からず、卽ち橫濱より南に、杉田の梅林あり、金澤の風光明媚なるあり。金澤の

鎌倉

西に鎌倉あり、此の地は、源賴朝以來、覇府の舊跡にして、鶴岡八幡・鎌倉宮・建長寺・圓覺寺・光妙寺・鎌倉大佛などの社寺あり。

橫須賀

是より三浦半島に至れば、逗子・橫須賀等あり、橫須賀は、吳・佐世保・舞鶴・室蘭と共に、帝國五軍港の一にして、造船所あり、船渠あり、帝國軍艦、常に投錨す。橫須賀の南東に、猿島砲臺及び

遊勝地

観音崎砲臺あり。上總の富津岬と相對して、東京灣の口を守る。觀音崎の南西に浦賀あり、我が近世史上有名の地なり。此の他にも猶江島・國府津・大磯・小田原・箱根等の勝地あり。東京人士の避暑及び避寒の地として、其の名高し。箱根には溫泉多し、謂はゆる箱根七湯とは、塔澤・宮下・底倉・堂島・木賀・蘆湯にして、此の外猶數處の溫泉あり。又山上に蘆湖あり、風景極めて佳し。

位置及び地勢

管内、陸には、東海道鐵道の貫通するあり、海には、汽船の出入頻繁なるありて、交通頗る便なり。

埼玉縣

埼玉縣は、東千葉縣と江戸川を以て界し、北は、群馬縣に、西及び南西は、長野縣と山梨縣とに隣り、南は、東京府に接せり。地勢上、東西の二區に分たる、東區は、一帶の平野にして、利根・中川・荒川等、其の間を灌漑す。西區は、秩父の山地をなし、荒川是より出でて、南東に流れ、隅田川となりて、東京灣に注ぐ。

浦和

埼玉縣廳は、浦和に在りて、武藏の内九郡を管す。浦和は、東京を距ること僅に五里餘、人口至つて少く、從つて商業振はず、住民の必要品は、多く東京市に仰ぐの傾あり。

東區平野

管内東區平野には、北部に熊谷あり、縣下中最も商業の盛なる處なり。其の南方に川越あり、川越平（ひら）川越斜子（なゝこ）の産地にして、甘藷の産額亦甚だ多し。其の他鴻巣・大宮・粕壁等の名邑あり、大宮には、官幣大社氷川神社あり、且此の地は、日本鐵道と高崎線との分るる所たり。此の平野には、日本鐵道の外東武鐵道・川越鐵道等の湊合するありて、交通甚だ便なるのみならず、田園頗る開けて、農業盛に行はれ、麥の如きは、全國第一等の産額あり。農家は其の傍ら、多く綿・藍の類を植ゑ、二子縞

の如き木綿織の製出甚だ多し。西方秩父地方は、養蠶の業盛にして、秩父絹の名高し、中にも大宮鄕最も著る。

位置

千葉縣

千葉縣は、謂はゆる房總半島を領し、利根川を以て北方茨城縣と界す。利根川は、源を上野の國に發し、南東に流れて、關東平野を横ぎり、銚子に至りて、太平洋に注ぐ。長さ七十餘里、坂東太郎の稱あり、其の支流の東京灣に注ぐものを江戸川といひ、武・總兩國の境を爲せり。管内南部は、低き山地にして峰岡山脈及び清澄山脈あり。北部は、丘陵の起伏せる平野にして、印旛沼・手賀沼等あり。東沿岸は、謂はゆる九十九里濱にして、鹽漁を以て名あり。

地勢

本縣は、安房一國・上總五郡及び下總の内六郡を管し、縣廳は千葉に在り。江戸川附近には、行德・市川・流山・野田等の名邑あり、行德は食鹽、流山は味淋、野田は醬油を以て名高し。市川の北なる國府臺は里見氏の古戰場にして、今は野戰砲兵第二旅團司令部の所在地たり。又千葉の東に、佐倉及び成田の二邑あり、佐倉には、兵營、成田には新勝寺の不動尊あるを以て、殊に名を知らる。

千葉

九十九里の濱

右の外、東京灣に臨みて、木更津・加知山・北條・館山等の諸邑あり、東海岸には利根の河口に銚子港ありて、銚子は利根の河口に犬吠岬ありて、太平洋に突出縮及び醬油等を出し、其の東に

し、勝區を以て知らる。又勝浦は、東海岸に於ける漁業の中心にして、其の南數里に、小湊の誕生寺あり、日蓮上人の出生地なるを以て、法華宗の信徒、多く此に詣づ。

位置

地勢

茨城縣

茨城縣は、東は太平洋に面し、北は福島縣に、西は栃木・群馬・埼玉の三縣に接し、南は千葉縣と界す。南部は、一般に平地にして、北浦・霞浦等あれども、北部は、阿武隈山脈の餘脈を受け、一般に山地にして、其の中筑波山を尤も高しとす。南方縣境に利根川あり、北部には、久慈・那珂の二流ありて、皆東海に注ぐ。

管内、陸には鐵道貫通し、利根川及び東京灣には、汽船往來するを以て、交通頗る便利なり。且東に太平洋を受け、西に東京灣を控へて、海岸線長き故、最も避暑に適す。又海産物の利、甚だ多く、鰹節・干鰯・石花菜等の産額、全國に冠たり。

偕樂園

三公園は、水戸偕樂園、岡山後樂園、金澤兼六園なり。

水戸公園

本縣は、常陸の一市十一郡及び下總の内三郡を管し、縣廳は水戸市に在り。水戸市は、元三家の一なる德川の城下にして、烟草及び膳の名産地なり、又有名の偕樂園ありて、日本三公園の一と稱せらる。

水戸の東大洗岬に磯濱あり、那珂川を隔てて、北に平磯あり。共に漁業盛なり。此等の地は、東の方太平洋を望み、風景最も佳にして、海水浴場の設あり。以上の外、石岡・土浦・結城等の小都ありて、酒・醬油を産出

す。

鹿島半島は、北浦及び利根川と太平洋との間に斗出し、鹿島に鹿島神社あり、千葉縣の香取神社と共に、古社を以て並び稱せらる。

縣下は、水陸共に交通便なるのみならず、農業亦盛にして、麥の如きは、產額實に埼玉縣に繼ぐ。其の他穀類・紬・石材の產出多く、鹹淡の漁利、亦少からず。

栃木縣

栃木縣は、茨城・群馬・福島三縣の間に狹まり、地勢は、南東の一部平野なれども、西と北とは山脈重なり、北境には那須岳あり、西境には白根山あり、共に有名の火山なり。那須の裾野は、那須野原と云ひ、白根の東に、男體山あり、縣下第一の高山なり、鬼怒川及び那珂川は、源を此等山彙の間に發して、共に茨

足尾

宇都宮市

日光

東照宮は徳川家康を祭れる處なり

日光廟

城縣に入る。

管內鹽原・那須及び湯元等の溫泉ありて、浴客多く、又庚申山麓には、足尾の銅山あり、東洋第一の大鑛山なりとす。

日本縣は、下野の一市八郡を管し、縣廳は宇都宮市に在り。市光廟の北西十里を隔つる日光には東照宮あり、社殿の結構、壯麗なるを以て、其の名海外に及ぶ。又其の山中に、中禪寺湖及び華嚴・裏見霧降等の名瀑ありて、風光頗る幽靜なるを

以て、避暑遊覽の人多し。此の他、眞岡・小山・鹿沼・足利等の名邑あり。

交通

本縣産物の重なるものは、生絲・足利絹・眞岡木綿・葛生地方の石灰石、足尾の銅、日光の漆器・皮類、鹿沼の大麻等なり。

位置

本縣南方の平野は、兩毛線・日光線・佐野鐵道等ありて、交通極めて便利なれども、北方は、甚だ不便なり。

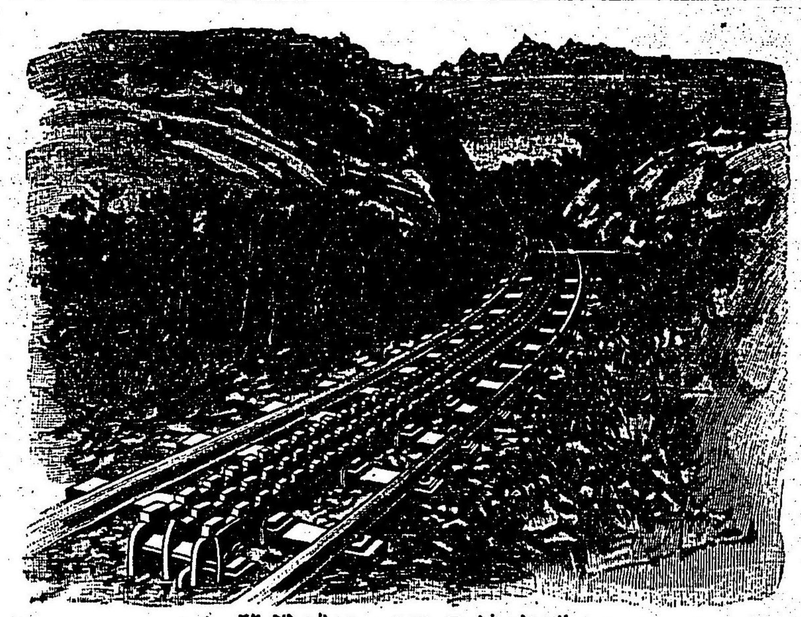
地勢

群馬縣

群馬縣は、東は栃木縣に、北は福島・新潟二縣に接し、南方は埼玉、西方は長野に接す。地勢は、南東の一部平地なれども、其の他は總べて山地にして、東境には、日光・白根・庚申・赤城の諸山あり、西境には、草津・白根・吾妻・淺間・榛名・妙義等の諸山あり、中仙道には、碓氷の嶮坂あり。

本縣は、那須火山脈と富士火山脈との殆と交叉する處なり、

前橋市



碓水峠のアプト式鐵路

以上の諸山は何れも火山質にして、淺間及び草津・白根の三山は今尚噴煙せり。是を以て溫泉處々に湧き出で、草津・伊香保等、最も著名なり。利根川は、源を縣の北西山地に發して、埼玉縣に入り、渡良瀬川は、栃木縣より來りて、終に利根川に合す。

本縣は、上野の一市十一郡を管し、縣廳は前橋市

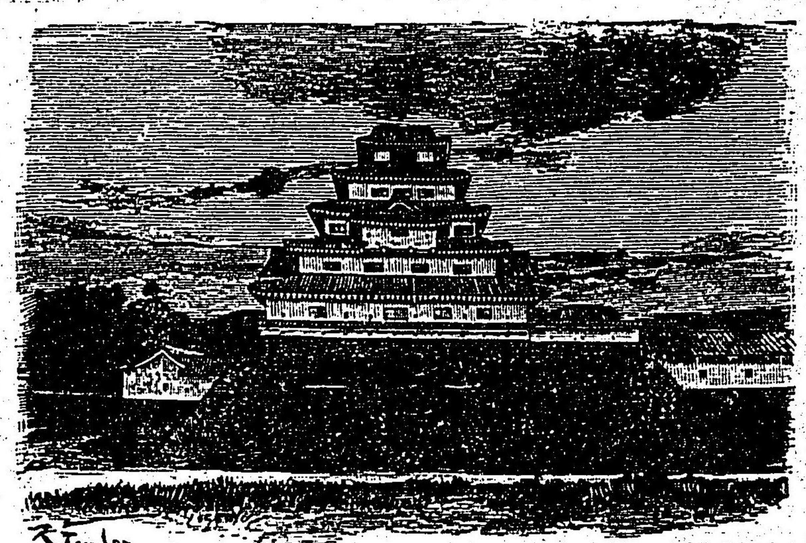
に在り。前橋は、有名なる生絲の市場なり、前橋の南西に高崎あり、兵營を置く。又其の南西に富岡あり、製糸場を以て著る。前橋の東に、桐生・伊勢崎等ありて、羽二重・銘仙を出す。本縣は、一般に養蠶の業盛にして、從つて生絲の産額甚だ多く、交通亦便なり。

第二節　奥羽

本州の北東磐城・岩代以北を古へ陸奥と稱す、道の奥の義なり。又其の西方、日本海に面する國を出羽と稱す、越路の出端の義なり。此の兩國を合して奥羽と云ふ。維新後、陸奥を磐城・岩代・陸前・陸中・陸奥の五國に、出羽を羽前・羽後の二國に分ち、福島・宮城・岩手・青森・秋田・山形の六縣之を分管す。

福島縣

福島縣は、東は太平洋に面し、南は茨城・栃木・群馬の三縣に接し、西は新潟縣に、北は宮城・山形の二縣に隣る。管内廣しと雖も、山岳重疊し、東邊には阿武隈山脈あり、中央には那須火山脈ありて、安達太郎・吾妻山・磐梯山等の火山其の上に列坐し、之に隣れる西部一帶の高地を會津高原と稱す。川の大なるものは、阿賀川・阿武隈川にして、前者は那須火山脈以西の諸水を合はせて、新潟縣に、後者は以東の小川



若松城

を合はせ、北流して宮城縣に入る。又中央に猪苗代湖あり、太平洋沿岸及び阿武隈川の邊僅に平地を存す。

福島

本縣は、磐城の内七郡及び岩代の一市十郡を管し、縣廳は福島に在り、其の地製絲の業盛なり。若松市は謂はゆる會津平野の中央に在り、戊辰の戰役に由りて有名なり。此の外白河・郡山・須賀川・平（タヒラ）の諸邑あり。

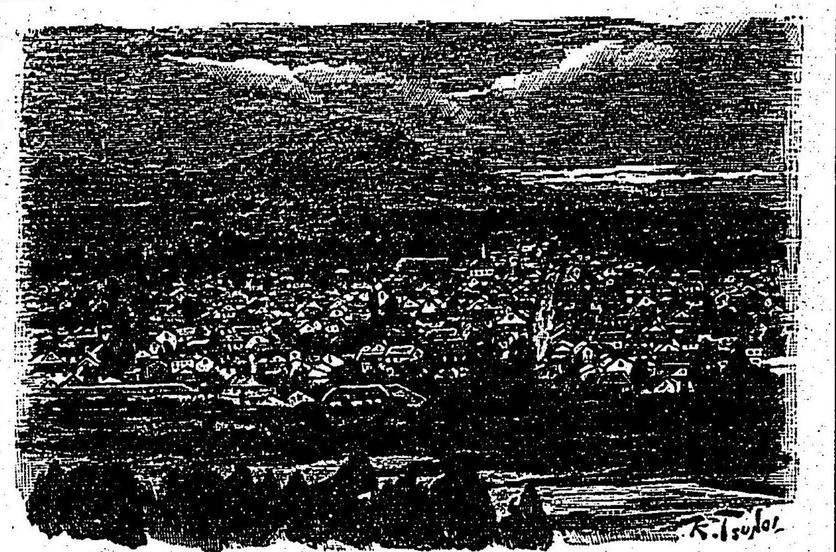
若松市

交通

管内山岳多しと雖も、官線私線の鐵道あるを以て、交通稍便なり。

産物

本縣有名の産物には、三春の馬、相馬の陶器、半田の銀鑛、三本木の紬、若松地方の會津塗・蠟燭・福島の絹絲・蠶卵紙・眞綿等あり。東部沿岸には石炭を産し、平附近には、小野田・入山等の著名の炭山あり、俗に磐城炭と稱して、專ら東京に運搬せらる。



宮城縣

宮城縣は、東は太平洋に面し、西は山形縣に、南は福島縣に、北は岩手縣に接せり。地勢中央部は、平野にして、北上川之を貫流し、西境は、仙臺市山岳連亘して、藏王岳・駒岳等の火山あり。其の近傍溫泉多し。東岸は、北上山脈南北に走りて、其の南端牡鹿（オシカ）半島をなし、其の西仙臺灣を抱く。

本縣は、陸前の一市十三郡

仙臺市

多賀城は在昔陸奥の鎭所として蝦夷に備へし所なり

松島

と磐城三郡とを管し、縣廳は、仙臺市に在り。仙臺市は、元伊達氏の城下にして、人口約七萬五千、東北の一大都會なり。城は今第二師團の本營となり、又第二高等學校及び政宗の廟所瑞鳳殿等あり。市の北東は。古への宮城野にして多賀城阯あり。

仙臺の東には、鹽竈あ

松島灣 日本三景は陸前の松島丹後の天橋立、安藝の嚴島なり

り、松島灣に臨む。松島灣には、數百の小島散布し、風景絶佳にして、日本三景の第一に數へらる。

松島灣の東、北上川の河口に、石巻港あり、其の東は即ち牡鹿半島にして、其の西岸なる荻濱は、横濱より函館に航する汽船の寄港する所なり。半島の南東端に、金華山あり、海中に屹立して、景勝に富む。北より來れる寒流の親潮は、此の附近にて其の跡を沒す、故に半島の内外に、氣候の著しき差ありと云ふ。

産物 本縣内有名の産物は、鉛・銀・埋木細工・仙臺平・海産物・農産物・馬等なり。

位置 地勢

岩手縣

本縣は、東は太平洋に臨み、北は青森縣に、南は宮城縣に、西は秋田縣に界す。域内中央の北上川沿岸を除く外は、總べて山

岳にして、東には、北上山脈あり、西境には、那須火山脈あり、又岩手山(俗に南部富士)駒岳等の舊火山あり。北上川は、中央平原を流れて、灌漑の便を與へ。南流して宮城縣に入る。管内面積甚だ廣きも、人口割合に少く、陸中の一市十一郡及び陸前・陸奥各一郡を管し、縣廳は盛岡市に在り。盛岡市は、元南部氏の城下にして、西に厨川の柵阯あり、此の地方を一般に南部と云ふ。又南方には、一關・平泉・衣川等あり、平泉・衣川は、歴史上有名の處なり。東海岸には、釜石・宮古あり、釜石は、鐵鑛と二十九年の海嘯とを以て、其の名を知らる。

産物　本縣産物の主なるものは、南部馬・南部鐵瓶・南部釜・南部縮緬・塗物・曇表・農産物等なり。

位置　青森縣

青森縣は、南は岩手・秋田二縣に隣り、東は太平洋、西は日本海、

地勢　北は津輕海峽を隔てて、北海道に對し、斗南半島及び津輕半島突出して、陸奥灣を爲せり。

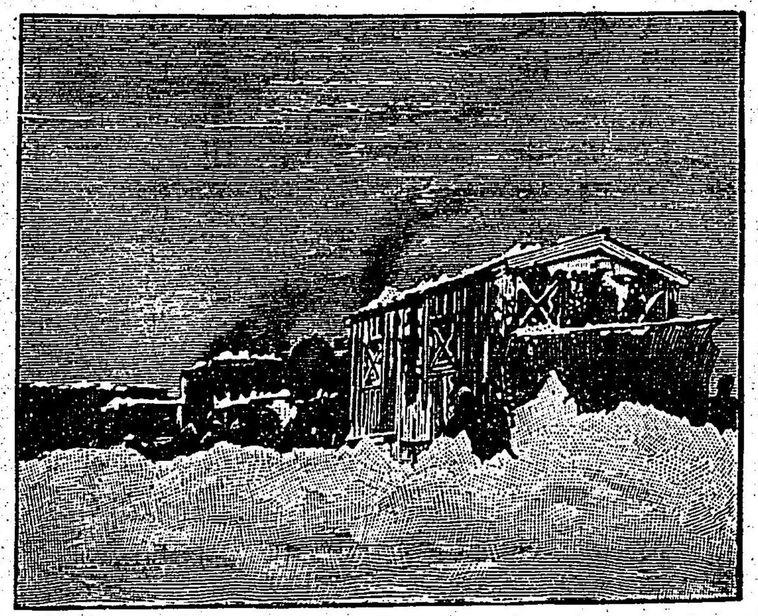
東・西・北の海岸は、僅に平地なれども、中央及び南部は、山岳多く、八甲田及び赤倉の諸火山列坐して、管内の地形を東西の二區に分つ、而して斗南半島には、恐山の火山あり、之を本州に於ける那須火山脈の最北端とす。

青森市　川の大なるものは、馬淵川・岩木川にして、前者は八戸の平地を流れて、太平洋に入り、後者は弘前の平地を流れて、十三潟に注ぐ。東海岸に小河原湖ありて、稍大なり。

弘前市　本縣は、奥羽の最北端にして、陸奥の内二市八郡を管し、縣廳は青森市に在り。青森市は、青森灣に臨みて兵營あり、函館と汽船の往復、頻繁なり。弘前市は、西部平地の中央に在りて、第八師團司令部の所在地なり。津輕富士の稱ある岩木山其の

交通

西に聳ゆ。八戸は東海岸に、野邊地は陸奥灣に臨み、共に名邑なり。此の地冬季は、寒冷にして積雪多く、爲めに人畜の凍死するものあり。交通機關としては、日本鐵道及び青森より弘前を經て秋田に入る官設奥羽鐵道の北線及び津輕海峽汽船ありと雖も、冬季は、其の用を爲さざることありと云ふ。



雪中の汽車

産物

本縣の主要なる産物は、七戸・三本木の馬・硫黄・漆器・其の他鮑・海參・鱶・鱈の如きは、産額何れも、全國第一に位し、鰊・昆布等亦少からず。

秋田縣

位置

岩手縣と分水山脈を夾みて、北は青森縣に接し、南は山形・宮城二縣に隣り、西邊一帶、日本海に面し、男鹿半島海中に拘出して、八郎潟を抱けり。管内能代川・御物川・子吉川の流域を除く外は、山岳連亘し、南に鳥海の舊火山あり、又院内の險あり、東には、那須火山脈の諸火山屹立し、北境には、矢立峠の險あり。平地は、山川の排置に由りて、自ら能代川上流平地・八郎潟沿岸平地・本荘平地の四區に分たる。能代川上流平地は、更に鷹巢平地・大舘平地・鹿角平地の三區に分つべし。

地勢

能代川の上流に、陸中尾去澤鑛山あり、其の支流なる阿仁川

鑛山

の上流に、阿仁銅山あり。阿仁の南に、荒川銅山あり、院内には、著名なる金銀山あり。其の外にも、鑛山甚だ多く、金・銀・銅の産に富むこと、東北に冠たり。中にも銀は、殆と全國産額の半に達せんとす。

秋田市

本縣は、羽後の一市八郡及び陸中の一郡を管し、縣廳は秋田市に在り。秋田市は、元佐竹氏の城下にして、秋田畝織・秋田八丈等の産あり。又甚だ大なる蕗を生じ、秋田蕗と稱して有名なり。秋田の北西なる土崎港は御物川の河口に在りて、此等産物の集散所なり。

交通

此の地は、鐵路未だ完成せず、加ふるに院内・仙人等の嶮路あるを以て、交通不便なり。幸に西方一帶、海に臨むも、是亦冬季は、風波險惡なれば、僅に夏季の便あるのみ。

山形縣

位置

山形縣は、宮城縣と分水山脈を夾みて、相對し、北は秋田縣に、南は新潟・福島二縣に隣り、西邊一帶、日本海に面す。

地勢

管内最上川流域、及び西部海岸を除く外は、大抵山地にして、南には飯豐山・朝日山あり、北には鳥海山あり、中央には月山あり。最上川管内を灌漑し、月山及び其の餘脈なる東山連山に由りて、管内の地勢は兩分せられ、最上川上流平地は、山形平野及び米澤平野となり、下流平地は、莊内平野となる。最上川は、日本三急流の一にして、大石田より船に乘りて、酒田に下る間は、兩岸の風景絶佳なり。

三急流は羽前の最上川、駿河の富士川、肥後の球磨川なり

山形市

本縣は、羽前の二市十郡と羽後の一郡とを管し、縣廳は山形市に在り。歩兵第三十二聯隊此に駐劄す。産物には紅花・薄荷あり。市の南、上山に、有名なる鶴脛溫泉あり。米澤市は、元上杉氏の城市にして、養蠶・紡織の業盛に、著名なる米澤糸織を出

米澤市

し、又漆器を産す。

最上川の下流地方は、謂はゆる莊內平野にして、米穀の産多し。其の南方に、鶴岡・大山あり、西海岸に加茂港・酒田港ありて、船舶の寄港する處たり。鶴岡は、蠟燭を産し、大山は、酒を産す。」

近時管內に、官設鐵道開通しつゝあり、又西海岸及び最上川は、舟運の便あるを以て、交通稍便なり。然れども冬季は、風波積雪の爲めに交通杜絶することあり。山形市の北方尾花澤は、積雪の多きを以て名高し。

第三節　本州中部

富士火山脈の西方、飛驒・信濃の地は、山岳錯綜して、本州中最も高峻なる地方をなす。今此の高地を中央とし、四近の十二國を併せて、本州中部と稱す。新潟・長野・山梨・靜岡・愛知・岐阜・富山・石川の八縣、之を分管す。

新潟市

元五港は橫濱、神戸、長崎、新潟、函館なり

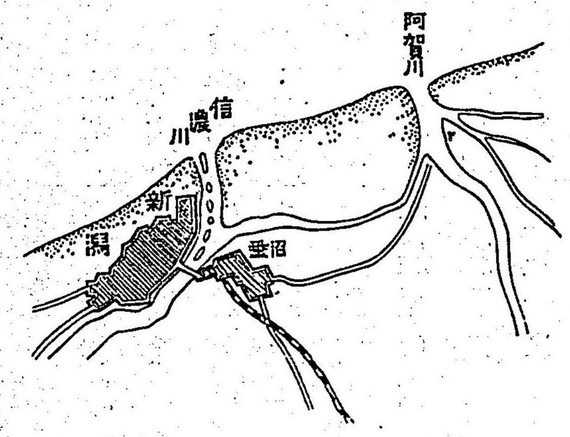
位置
地勢

新潟縣

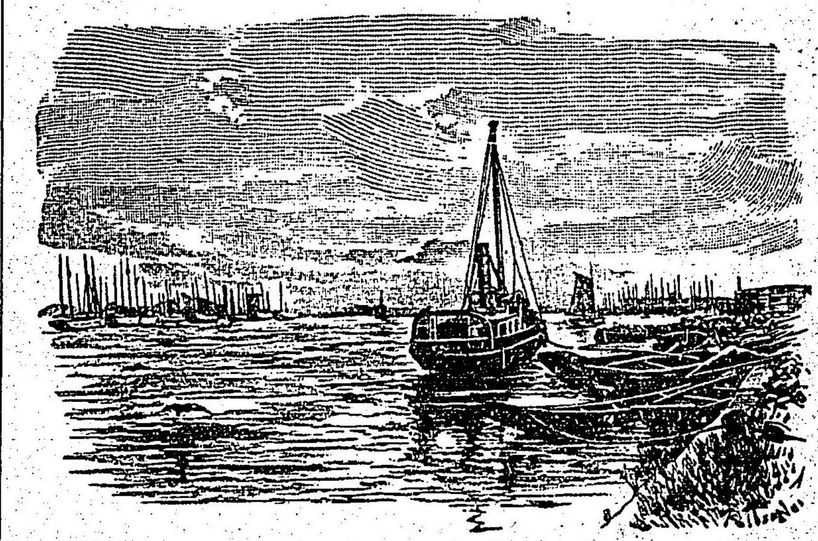
新潟縣は、山形・福島・群馬・長野・富山の五縣に接し、東・南・西の三方、悉く山を以て圍まれ、獨り北西の一面、日本海に向つて開く。信濃川は信濃より、阿賀川は岩代より來りて、國中を貫流し、下流灌域及び海岸は、平地にして米の産出多く、中央米山の山群に由りて、新潟平野及び高田平野の二區に分たる。

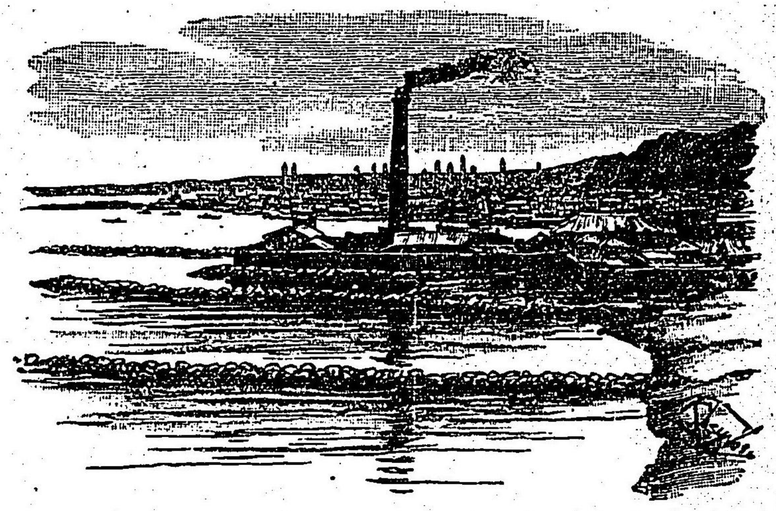
本縣は、本邦中屈指の大縣にして、越後の一市十五郡及び佐渡一國を、管し、縣廳は新潟市に在り。此の市は信濃川の河口に位し、元五港の一にして、日本海の要港なれども、泥砂港口を塞ぎて、大船の碇泊に便ならず。三條は、新潟の南東に在りて、商業上の要地なり。其の北西に燕あり、銅器の産地として名高し。又三條の北東に、五泉・村松等の名邑ありて、稍地を出す。五泉の北に新發田あり、村松と共に、第二師團の分營あり。

長岡は、信濃川の東岸に在る商業地にして、其の上流なる小千谷地方の越後縮布、十日町の透綾等、多く此



新潟港





海中石油鑛

の地に集散す。柏崎は、海岸の名邑にして、其の南西に米山あり。直江津は、荒川の河口に在る港なり。其の南に高田あり、降雪の量、殊に多きを以て名あり。

管内處々に石油を産し、其の額一箇年凡そ七十五萬五千餘石（明治三十三年調）に達す、未だ一般の需用に充たすに足らざれども、内國産の石油の大多數は實に此に出づ。又石炭瓦斯の、自然に地中より出づる

處あり、或は之を屋内に引きて、物を煮、又は燈火に代用す、之を火井と云ふ。

佐渡

佐渡は、新潟の西凡そ二十五海里の海上に在る一孤島にして、古來金の産出多きを以て名あり。相川町は南西に在りて、島中第一の地なり、金山朱泥を以て作る陶器無名異燒及び裂織の産あり。相川の南東眞野灣の上には順徳天皇を祀れる眞野宮あり。

無名異燒

交通

管内に北越鐵道・信越鐵道あり、又近海及び信濃川は、汽船の往復あるを以て、交通割合に便なり。

位置地勢

長野縣

長野縣は、新潟・富山・群馬・山梨・靜岡・愛知・岐阜諸縣の間に介在し、本邦中の最高地にして、東に淺間・白根・荒船等の火山あり、西に乘鞍火山脈あり。而して國内に八岳・蓼科山等の火山及

び木曾山脈・筑摩山脈等ありて、國を四區に分つ。千曲・犀・木曾・天龍の四川、各四隅の谿谷より發し、天龍川は、南流して遠江に入り、木曾川は、南西美濃に入り、北流せる犀川は、千曲川と合し、越後に入りて信濃川となる。此の二川の合流せる所を川中島と云ふ武田・上杉の古戰場なり。

川中島

長野市

本縣は、信濃の一市十六郡を管し、縣廳は長野市に在り、市北に有名なる善光寺あり。信越鐵道は越後より來りて、此の市を過ぎ、千曲川に沿ひて南東す、途中に上田あり、紬の名産地なり。又長野の南なる篠井より、篠井線分岐して、松本に至る。松本は、養蠶の最も盛なる處にして、又第一師團の分營あり。是より南の方鹽尻峠を越ゆれば、諏訪湖畔に上・下諏訪あり。天龍川右岸の飯田は、信濃南方の名邑にして元結を産す。下諏訪より南西美濃に出づる道は、謂はゆる木曾街道にして、

木曾街道

有名なる大山林あり。木曾川は、此の山間を流れ下りて、美濃に入る。此の國は、總べて山間に在るが故に、多く桑・漆・楮等を栽培し、生絲・眞綿・蠶卵紙及び漆汁の製出甚だ多く、從つて織物・漆器を産し、奉書・杉原等の紙の産出、少からず、又多く寒天を製出す。

位置
地勢

山梨縣

山梨縣は、長野・靜岡・神奈川・埼玉及び東京府の間に在る山地にして、南境に富士山あり、西境に駒岳あり、北東には、關東山脈あり。又歴史上有名の天目山、其の他笹子峠等の諸山の南北に連なるありて、國を東西に分つ。東部は、郡内にして、紡織の業盛に、傘地・裏地に用ふる甲斐絹・郡内絹を産す。郡内の諸水、桂川に集り、相模に入りて馬入川となる。桂川の中流に猿橋あり。左右絶壁の上に架したるものにして、奇工を以て稱

甲府市

せらる。

本縣は、甲斐の一市九郡を管し、縣廳は甲府市に在り。甲府は、西部平野の中央に在りて、其の近傍善く葡萄を産し、勝沼の如きは、最も多し。平野の諸水は、皆富士川に集り、南流して駿河に入る。此の川は日本三急流の一にして、鰍澤より岩淵に至る十八里、六時間にして達すべく、頗る水運の便あり。甲斐は、武田氏の累代居りし處にして、信

猿橋

玄に至り、國勢を強くせしかば、國人今に至りて其の功績を稱す。

位置
地勢

靜岡縣

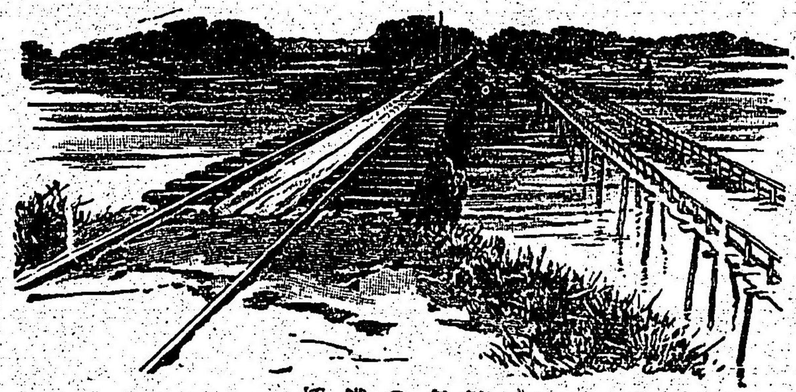
靜岡縣は、北は長野・山梨二縣に隣り、東は神奈川、西は愛知縣に接し、南は遠州灘に面す。伊豆半島海中に突出して、駿河灣を擁せり。伊豆半島を除く外は、海岸一帶平野にして、天龍川信濃より來り、大井川駿河國境より發して共に遠州灘に注ぎ、富士川甲斐より來りて、駿河灣に注ぐ。北西に赤石山脈あり、三河・信濃に境し、東は箱根・足柄の連山を以て、相模に連なる。富士山は、甲斐の境に在り、富士火山脈の主山にして、高さ凡そ一萬二千五百尺、形容極めて秀麗にして、火山の好標本たり。此の山古來時々噴火し、近くは寶永四年、半腹に寶永山を噴起せり。

富士山

此の邊を過ぎて、大仁に達す。大仁の南西に修善寺の溫泉あり。

本縣は、駿河の一市五郡・遠江の六郡・伊豆二郡を管し、縣廳は靜岡市に在り。靜岡市は、元駿府と稱し、德川家康の退隱せし處にして、現今第三師團の分營あり。市中竹細工を產し、又近年海外輸出の漆器製造甚だ盛なり。

駿河灣頭に沼津あり、其の東三島には官幣大社三島神社あり、伊豆鐵道

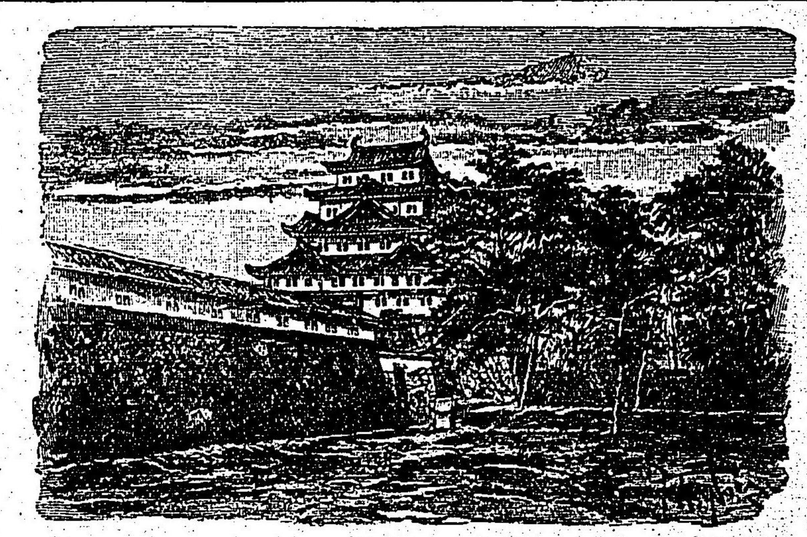


濱名の鐵橋

り。蓋し伊豆は富士火山脈通過の衝に當りて、處々に溫泉多く、熱海・伊東の如き、殊に有名なり。伊豆の南隅に下田港あり、屈指の良港にして、相州浦賀と共に、黒船來着を以て、歴史上に名あり。興津は、田子浦の西方なる名邑にして、其の西に景勝を以て聞ゆる清見潟あり。三保松原前面に突出して、其の内部に開港場なる清水港を擁す。

濱松は、西部の都會にして、茶を産す、西に濱名の湖、北に三方原の古戰場あり。其の他縣下處々に茶多く、其の

位置
地勢



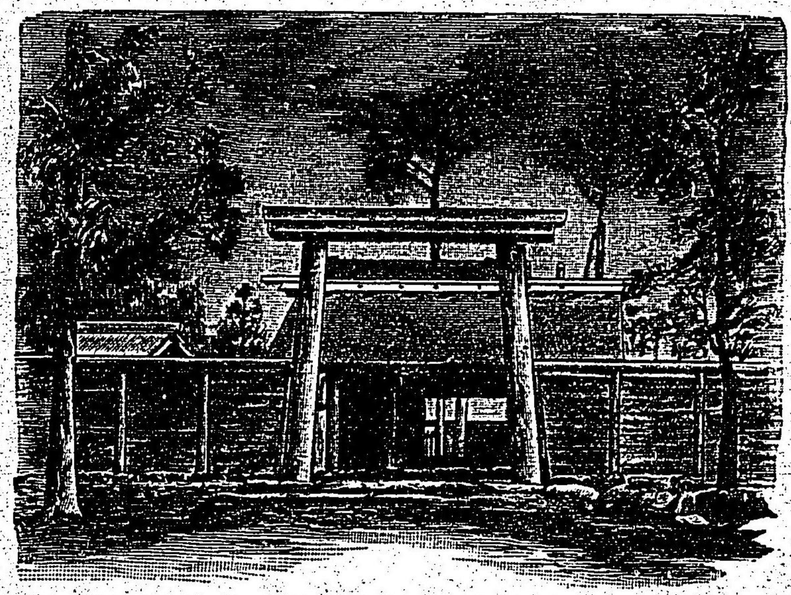
名古屋城

産額、凡そ全國の三分の一を占む。又遠州には、疊表及び石油の産あり。

愛知縣

愛知縣は、東は靜岡、北は長野・岐阜二縣に接し、西は三重縣に界し、南は太平洋及び伊勢海に面せり。三河の渥美半島、尾張の知多半島、互に突出して、三河灣を擁せり。東北は山地にして、其の他は總べて平野なり。豐川及び矢矧川は、各豐橋及び岡崎の平野を作り、

名古屋市



木曾川は、縣の西境を流れ、其の分流及び莊内川は、尾張の大平野を作る。」本縣は、尾張の一市九郡及び三河の十郡を管し、縣廳は名古屋市に在り。

熱田神宮

名古屋市は、濃尾平野の南方に在て、人口二十五萬に近く、我が國第四の大都會たり。他日中央鐵道開通するに至らば、市況更に繁盛すべし、舊名古屋城は、方今離宮となり、有名なる金の鯱、其の天主閣上に輝き、其の外廓に、第三師團司令部あり。市には名古屋扇・七寶器等の美術品の產あり。

熱田神宮

市の南東熱田の地は、伊勢海航行船舶の發著所にして、此に熱田神宮あり、本邦三種の神器の一たる草薙寶劍を奉祀す。其の南東に鳴海及び有松ありて、共に絞を產す。名古屋の北東に瀨戶村あり、瀨戶燒を以て有名なり。

瀨戶燒

屋張の平野は、大なる大根を生じ、又綿・藍等を產して、木綿の紡織盛なり。岡崎の平野も、亦三河木綿を產し、縣下木綿の產額は、內國第一なり。三河の豐橋には、第三師團分營あり。又岡崎は德川氏の起りし處にして、其の附近に長篠・桶狹間・小牧・長久手等の古戰場あり。

交通

此の地、陸には、東海道鐵道・關西鐵道・豐川鐵道等あり。海には、熱田を起點として、汽船の發著するあるを以て、交通極めて

便なり。

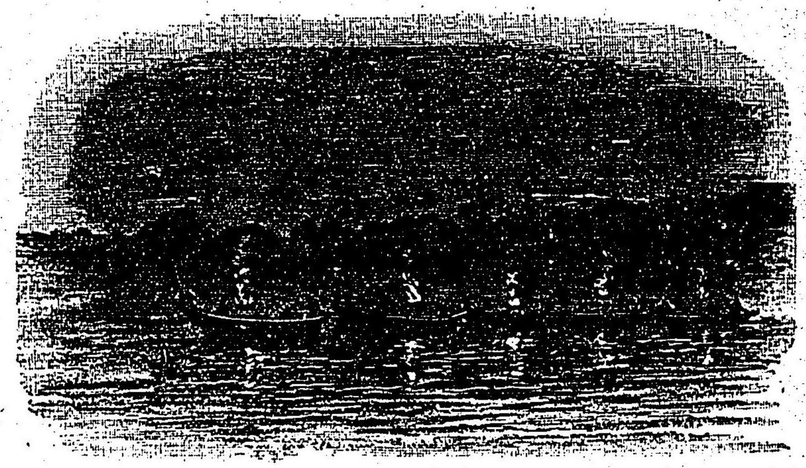
岐阜縣

位置　岐阜縣は、愛知・長野・富山・石川・福井・滋賀・三重諸縣の間に在り。

地勢　南西の一隅は、濃尾平野の一部分にして、土地平坦肥沃なれども北東の二面は、土地高峻にして、東に飛騨山脈あり、北に濃越の國境をなせる連山ありて、地勢上、東濃及び西濃の二區に分たる。諸水は皆此の急坂を奔下し、飛騨川・揖斐川・長良川等に集り、木曾川と共に伊勢海に注ぐ。上流の傾斜急なるが故に、西濃の平地は、往々洪水の災を免るる能はず。

岐阜市　本縣は、美濃の一市十五郡と飛騨三郡とを管し、縣廳は岐阜市に在り。此の市は、長良川に臨み、鵜飼を以て名あり、岐阜提燈・岐阜團扇・縮緬等を産す。東海道鐵道は、名古屋より岐阜に至りて西折し、大垣を經て、

位置　養老瀧關原



長良川の鵜飼

近江に入る。途中養老瀧關原等、歴史上有名の處あり。西濃の平地は、多く良米を産し、東方尾張の瀬戸に近き邊は、盛に陶器を製出す、然れども縣下産額の最も多きは、紙類とす、美濃紙の名は、是より起れり。

飛騨は、山間の別天地にして、其の中央に高山あり。生絲・漆器を産するも、交通は甚だ不便なり。

富山縣

富山縣は、飛騨の北に在りて、富山灣に面し、東には、飛騨山脈あ

地勢

り、西は寶達山脈に依りて、石川縣に接せり。神通・射水・黒部等の諸川、總べて南方山間より出で、北方平野を貫きて、富山灣に注ぐ。

富山市

本縣は、越中の二市八郡を管し、縣廳は富山市に在り。市は神通川の下流に在りて、古來反魂丹其の他の賣藥を以て著る。

高岡市

富山の西射水川の畔に高岡市あり、銅器・漆器を産す。

官設北陸線は、富山に起り、高岡を經て、西方倶利加羅峠を越え、加賀を過ぎ、越前の敦賀にて、東海道鐵道敦賀支線に連絡す。

高岡の北に伏木あり、亦一の貿易港なり。中越鐵道は、高岡より起り、南方城端に通ず。

此の國の北方平野は、多量の米穀を産し、川には鮭・鱒等あり、沿海亦漁業の利少からず。

位置

地勢

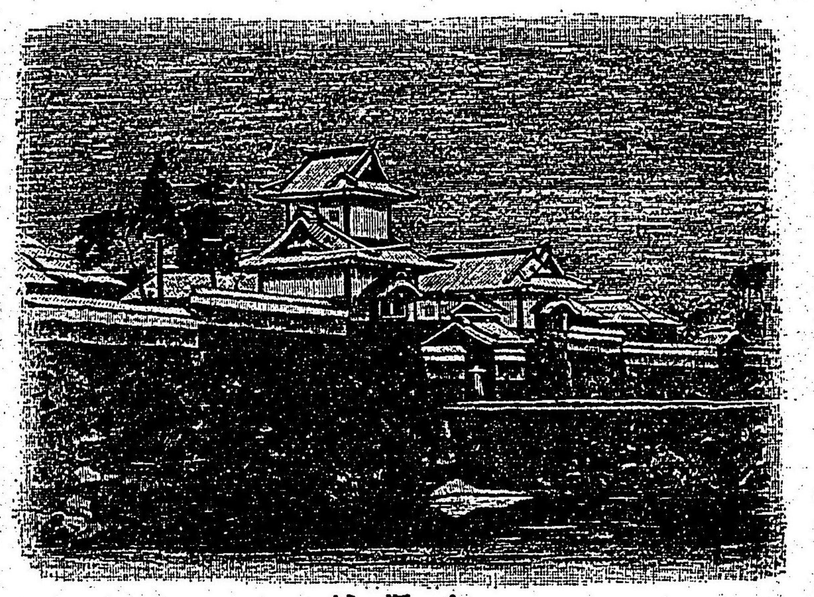
金澤市

石川縣

石川縣は、東は富山縣・岐阜縣に接し、南は福井縣に隣り、西・北は日本海に面せり。東・南には、白山・大日山等あり兼ねて、山岳重疊し、海岸一帶六平野にして、能登半島、北方園に突出せり。

北陸鐵道、越中より金澤市に至り、其の間更に津幡より、能登の七尾に通ずるものあり、七尾は開港場なり。

本縣は、加賀の一市四郡と



能登一國とを管し、縣廳は金澤市に在り。金澤市は、元前田氏の城下にして、現今第九師團司令部及び第四高等學校あり、北國一の大都會なり。其の公園兼六園は、日本三公園の一と稱せらる。市中象眼細工・銅器・漆器・陶器等を産す。其の外縣下には、美術品・工藝品多く、小松・大聖寺の南東なる山中の漆器、山代の陶器(九谷燒)能登の北方なる輪島の漆器等、何れも有名なり。

縣下鰤・鮪・海參等の海産物多く、亦蠟・表・麻・織物・漆汁等あり、中にも漆汁は、其の額多く、漆器の産あるも、一は之に因れり。

第四節　近畿地方

神武天皇大和の橿原宮にて、民を治め給ひてより、歷朝の帝都、多くは其の近國に在り、故に此の附近の五國を畿內と稱す。今此の畿內五國と、四近の十二國とを併せて、近畿地方となす。福井・滋賀・京都・三重・奈良・和歌山・大阪・兵庫の二府六縣之を分管す。

福井縣

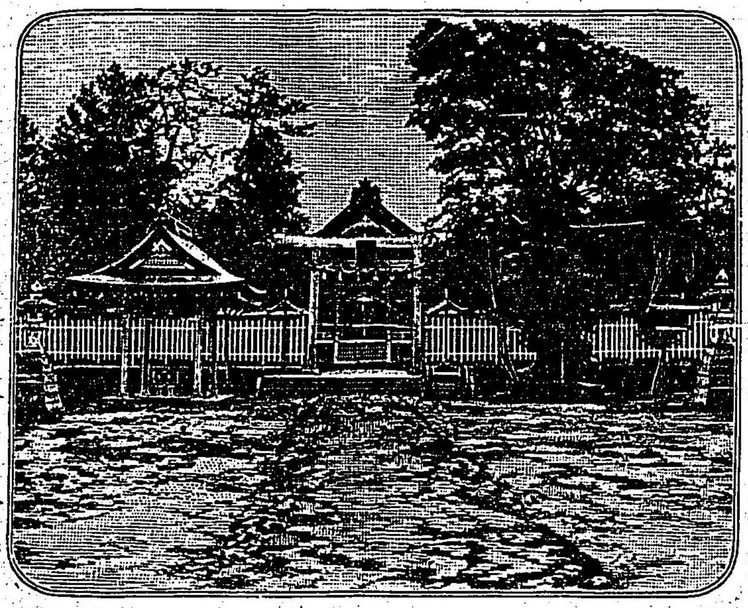
位置・地勢

本縣は、石川縣の西に在り、南方一帶、山脈連亘し、九頭龍川沿岸及び海岸に、僅少の平野あるのみ。

福井市

本縣は、若狹一國と越前の一市八郡とを管し、縣廳は福井市

藤島神社
永平寺



藤島神社

て、一の開港場なり。港上に氣比神宮及び金崎宮あり。敦賀灣頭に在り。福井市は、元松平(結城)氏の城下にして、市中に、藤島神社あり、新田義貞を祭る。九頭龍川口に坂井港あり、運輸の便好し。福井市の東四里、志比谷村に永平寺あり。曹洞宗の本山にして、近時勅額を賜ひたる名寺なり。鯖江及び敦賀には、共に第九師團の分營あり。敦賀は、敦賀灣頭に在り

氣比神宮は神功皇后を祭る金崎宮は尊良親王恒良親王を祭る

小濱

より西方若狹の海岸は、屈曲甚だ多く、漁業の利あり、中にも鯖・小鯛・鰶など多し。其の小濱灣頭なる小濱には、漆器若狹塗の産あり。越前には、越前雲丹の名産あり。又茶・楮・桑・麻等を植ゑて、製茶・養蠶に從事するもの多く、生絲・羽二重・奉書紬等を産す。縣下絹織物の額は、實に京都に次ぎ、而して麻織物も、亦少からず。紙には、奉書・鳥の子・杉原等の名産あり。

交通

北陸鐵道、加賀より來り、敦賀に於て、東海道鐵道敦賀支線と合し、又海上汽船の往復するあるを以て、交通稍便なり。

滋賀縣

位置地勢

滋賀縣は、若狹・越前の南方に在り、四方山を以て圍まれ、中央に琵琶の大湖あり、近江(チカツアフミ)の國名、是より起る。湖畔景勝に富み、近江八景の選あり。湖中の水は、勢多川及び疏水となりて、山城に入る。湖中鯉・鮒等の魚類多し。

大津市

本縣は、近江の一市十二郡を管し、縣廳は大津市に在り。此の市は、琵琶湖の南端に臨み、商業盛にして、第四師團の分營及び園城寺あり。其の北に、天智天皇の皇居たりし志賀の都の遺阯あり。國の南東部は、畿内より東國に出づる要路に當り、東海道、木曾街道、北國街道の行旅、皆之を經由す。東海道鐵道の敦賀支線は、越前より來り、賤嶽を過ぎて、湖中の竹生島を望み、濱縮緬を以て名高き長濱を經て、米原に至り、本線と會す。東海道鐵道は、美濃より來り會し、更に彦根、草津を經て、京都に入る。草津よりは、關西鐵道支線の伊賀に入るあり。彦根は、元井伊氏の城下にして、公園樂々園の有名なるあり。近江鐵道此より分れて、八日市に達す。八幡には、八幡蚊帳の名産あり、野洲は、野洲川に沿ひたる地にて、野洲晒布を出す。湖西は、地勢狹く、僅に高島の硯材を産す。湖東は平野多く、農

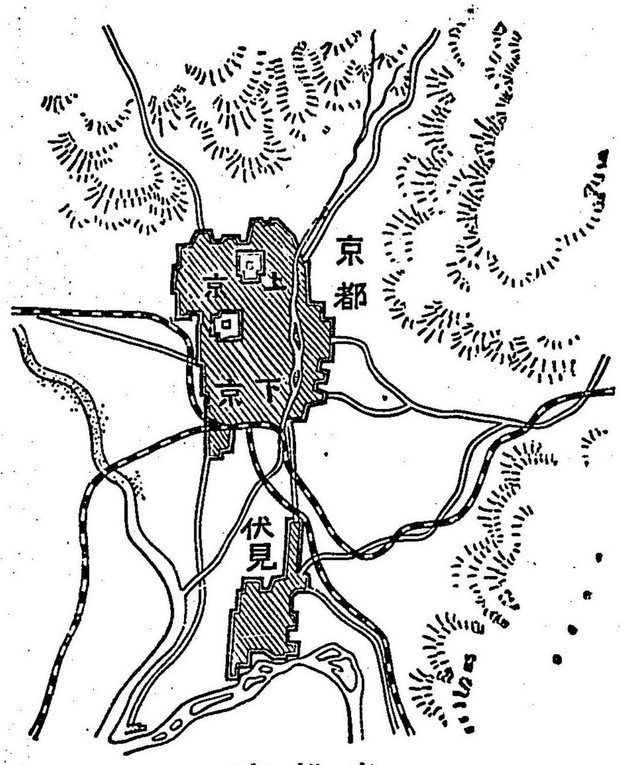
交通

賤嶽

位置及び地勢

業盛にして、江州米及び菜種・麻等を出し、又花莚・疊表の産あり。南方信樂谷には、茶及び陶器信樂燒あり。

京都府



京都府

京都府は、福井・滋賀二縣の西方に在り。地勢一般に山地にして、其の中比叡・愛宕・鞍馬の三山最も著る、唯京都・淀四近、及び由良川沿岸は平野なり。

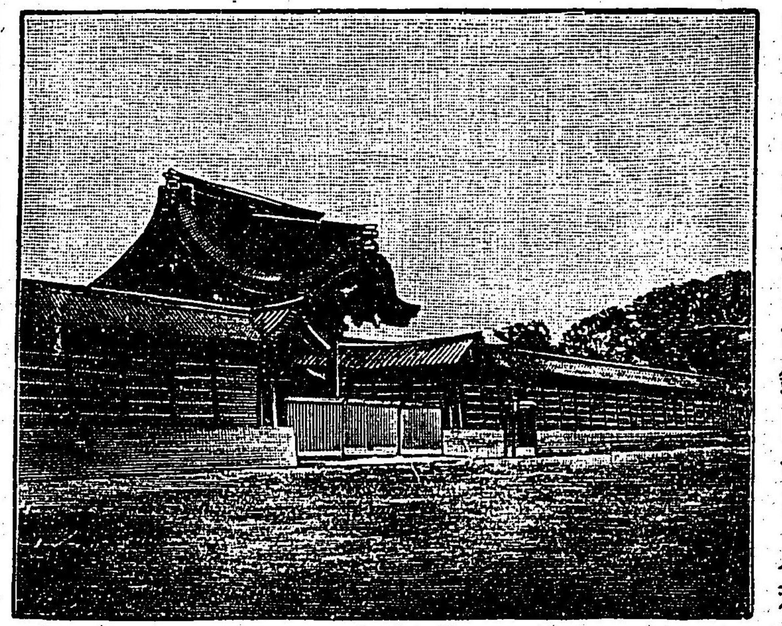
本府は、山城の一

京都市

市八郡・丹波の五郡及び丹後五郡を管し、府廳は京都市に在り。京都市は、元平安京にして、桓武天皇遷都以來、千餘年間の帝都の地なれば、神社・佛閣名所舊跡等、殊に多くして、今尚我が國の美術・工藝の中心たるを失はず。市中に、京都帝國大學・第三高等學校・帝國京都博物館等あり。人口三十五萬餘、本邦第三の大都會たり。

御所

禁裏御所は、市の北部に在り、二條城の北西は、卽ち古の大内裏の跡なり。神社には、加茂上下の社、北野神社・豐國神社・八坂神社・吉田神社・稻荷神社等あり。寺院には、東西本願寺・南禪寺・知恩院・清水寺・東寺・仁和寺・大德寺・三十三間堂等あり。泉涌寺には、歷朝の御陵あり。平安神社は、其の拜殿を古の大極殿に模して作り、碧瓦丹楹、古代の皇居の樣を想像すべく、加茂神社の祭禮は、葵祭と稱して、古式を存す。又金閣寺・銀閣寺の、足利將軍榮華の跡を遺せるあり。阿彌陀峰頭に豐臣秀吉の石塔あり。近年豐國三百年祭執行の際の改築に係る。



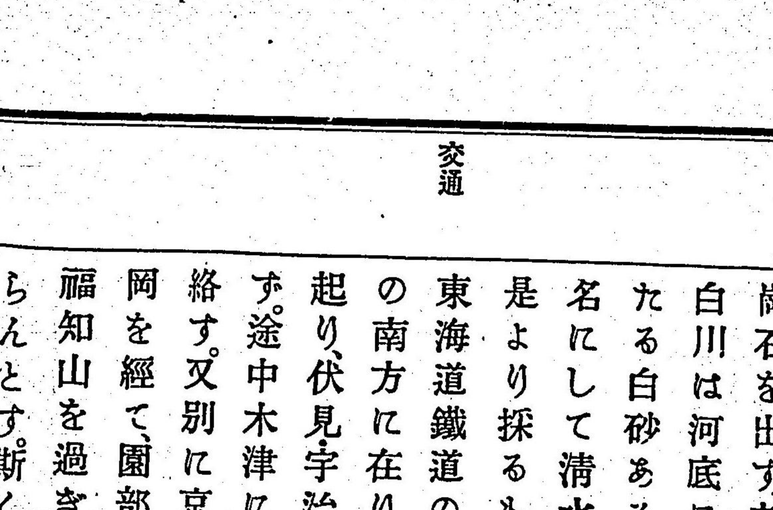
禁裡御所

京都市の產物には、美術工藝品甚だ多し。中にも清水・粟田の陶器、西陣の織物、友禪染・繡物・七寶器・銅器・京塗等名高く、此の他京紅・白粉・みすや針、亦有名なり。

京都市の北東白川は、花

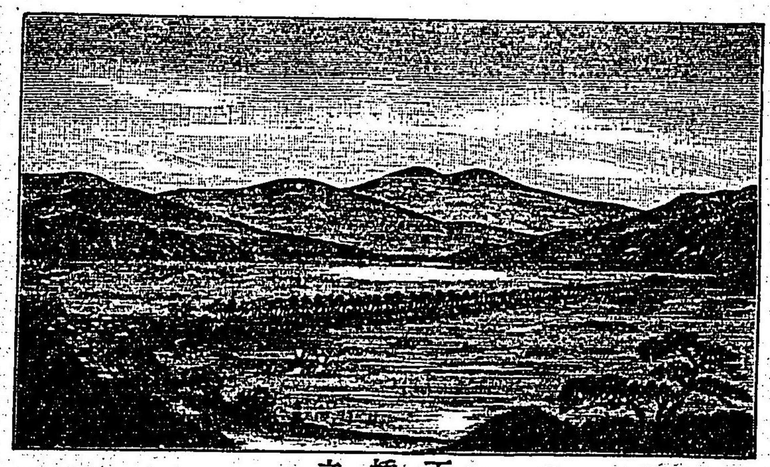
岡石を出す、之を白川石といふ。
白川は河底に此の石の風化したる白砂あるに由りて得たる名にして清水・粟田の陶土も、亦是より採るものなり。
東海道鐵道の京都停車場は、市の南方に在り。奈良鐵道是より起り、伏見・宇治を經て、奈良に通ず。途中木津にて、關西鐵道と連絡す。又別に京都鐵道の、嵯峨・龜岡を經て、園部に至るあり、他日福知山を過ぎて、舞鶴軍港に至らんとす。斯く鐵道四通の便あるが上に、近年又琵琶湖の水

加茂葵祭の圖



を疏して、市の東部に導き、一は運輸の便に供し、一は水力を各種の工業に利用せり、京都市の繁榮將來益多望なりといふべし。
此の地景勝の處少からず、卽ち嵐山の櫻花、高雄・栂尾の紅葉の如き、其の最も著るるものなり。
福知山は、丹波北西の名邑にして、大阪より舞鶴に至らんとする阪鶴鐵道は、今や此の地まで開通せり、此に姫路第十師團の分營あり。由良川此の邊を過ぎ、北流して丹後に入り、由良港に注ぐ。由良の東に、舞鶴灣あり、西に宮津灣あり、兩灣內各良港あり、卽ち前者は軍港にして、後者は開港場なり。宮津灣內に天橋立あり、日本三景の一にして、風景甚だ佳なり。海中鰛鰮・海鼠等、水產の利あり。
京都市の南方に、伏見あり、京都との間に電車鐵道を通じ、大

位置
地勢



天橋立

は、渥美半島と相對して、伊勢灣の入口を扼せり。地勢西部は、一般に高峻にして、東に向つて漸下し、海岸は一帶に平野に屬せり。

本縣は、伊勢の二市十郡と、伊賀・志摩の二國及び紀伊の二郡を管し、縣廳は津市に在り。津市は、元藤堂氏城下の地にして、一に安濃津と云ふ。織業盛にして、綟子（モヅ）の名産あり。此の市の北方海岸に、四日市市あり、貿易港にして、伊勢灣の要港なり。

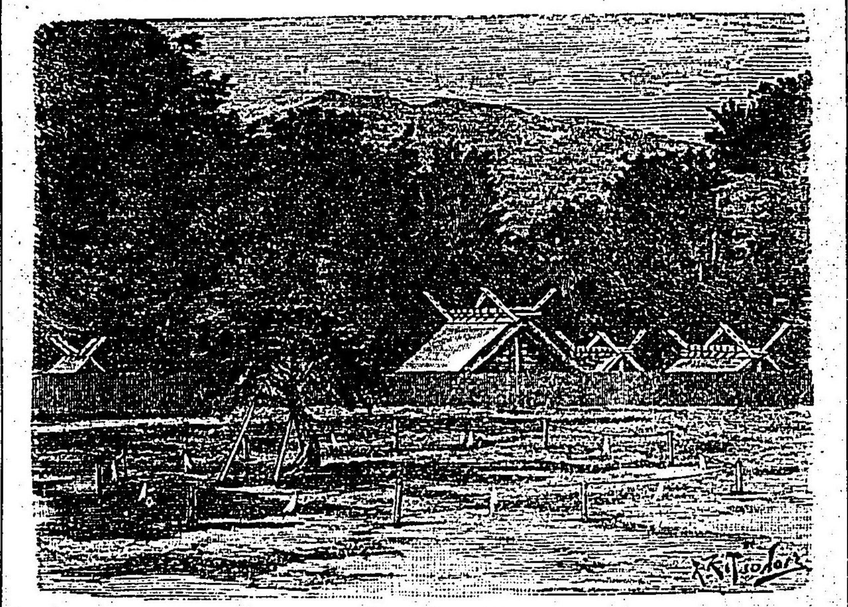
阪第四師團の分營あり、大阪より、淀川に由りて、毎日汽船往復す。伏見の南方に宇治あり、此附近宇治銘茶を産す。宇治川の畔に、平等院あり、其の本殿なる鳳凰堂は、藤原時代建築物の模範として、其の名世に高し。

天橋立

三重縣

三重縣は、西の方笠置山脈・大臺原山等を以て、奈良縣に境し、北は滋賀・愛知二縣に隣り、東は太平洋及び伊勢海に面し、而して其の志摩

津市
四日市市



宮内

字治
字治山田

其の北方桑名は、時雨蛤及び萬古燒を産す。

津市の南方宇治に内宮（ナイグウ）天照大神、宇治山田に外宮（ゲグウ）豐受大神を奉祀す。其の神殿は、兩宮共に我が國古式の建築にして、境内廣く、老杉多く、境に入るものをして、思はず崇敬の念を起さしむ。

位置
地勢

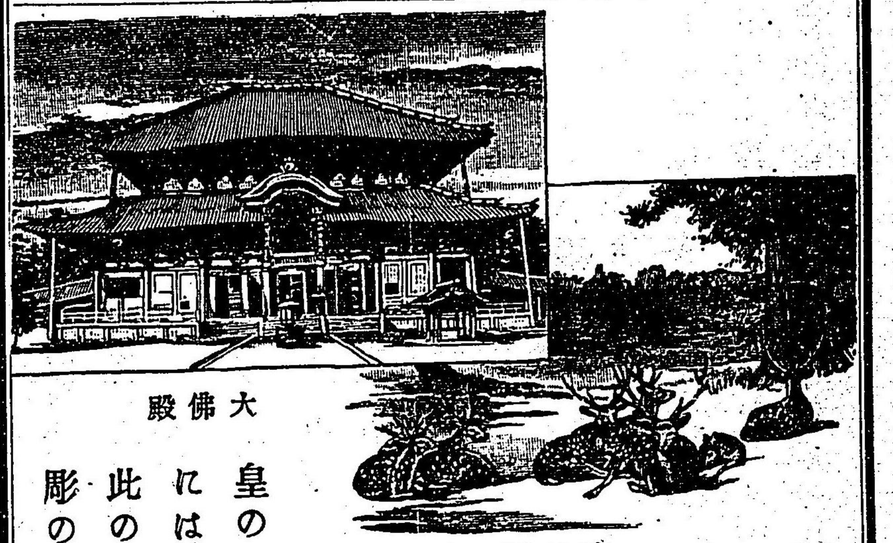
海濱は、勝地多く、北に阿漕（アコギ）浦、南に二見浦あり。二見より南すれば、即ち志摩の國にして、鳥羽の良港あり。是より西南總べて漁業盛にて、鹿角菜（ヒカゲ）・海參（ナマコ）・鰹・淡菜・眞珠等の利多く、伊勢海（イセエビ）亦名あり。志摩の南西、紀伊の地は、奥熊野と稱す。

奈良縣

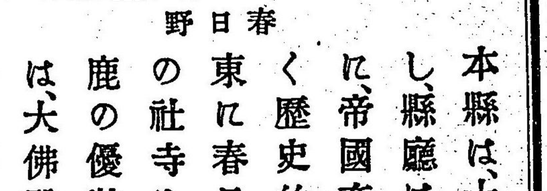
奈良縣は、三重・和歌山の二縣及び京都・大阪二府の間に狹まり、四圍皆山脈にして、北方僅に平野あるのみ。平野の諸水は、皆大和川に集り、西流して、河内に入る。

奈良市

大佛



大佛殿



春日野

本縣は、大和の一市十郡を管し、縣廳は奈良市に在り。市中に、帝國奈良博物館ありて、多く歴史的參考品を陳列す。市東に春日神社・東大寺・興福寺の社寺あり、春日社頭には、麋鹿の優遊するあり、東大寺には、大佛殿の宏莊なるあり。大佛は、高さ五丈三尺餘、聖武天皇の建立し給ふ所なり。又市の西方には、奈良朝七代間の帝都の阯あり。此の地奈良晒布・奈良漬・奈良團扇・木彫の奈良人形・鹿角細工・籙酒・根來塗（ネゴロヌリ）

月瀬　等を産す。奈良の北東隅伊賀の國境に、月瀬の勝地あり、名張川の兩岸、梅林數里に亘り、花時最も美觀なり。梅の木細工・梅漬等を産す。

交通　奈良市に通ずる鐵道は、關西鐵道支線・奈良鐵道・大阪鐵道支線等にして、交通頗る便なるのみならず、櫻井驛・法隆寺・畝傍橿原神宮・吉野山・如意輪堂・金剛山等の名所舊跡多きを以て、遊覽の人、常に絶えず。吉野山地方よりは、吉野葛・吉野漆・吉野紙等を産す。

和歌山縣

位置　本縣は、北は和泉山脈を以て大阪府に隣り、東は奈良・三重二縣に接し、西は海を隔てて、淡路・阿波に對し、南方は海中に突出して、其の南端に潮岬あり。是より以東を熊野洋といふ、捕鯨を以て名あり。域内山岳多く、唯紀川・熊野川沿岸及び海岸

地勢　一帶、平地あるのみ。

本縣は、紀伊の一市七郡を管し、縣廳は和歌山市に在り。市は、紀川河口に在りて元德川三家の一たる紀伊大納言家の城下なり。今は多く綿フランネル」を産出す。市南に和歌浦あり、景勝の地たり。又其の南方に黒江あり、黒江椀を製し、其の産出高、本邦漆器の第一たり。大和の境に近き處、高野山あり、山上の金剛峰寺は、弘法大師の開基として、古來最も著名なり。此の地方より、高野槇及び其の他の良材を出す。山中亦氷豆腐を製す、謂はゆる高野豆腐なり。

紀川と並行して、稍南に有田川あり、此の附近多く蜜柑を産す。謂はゆる紀州蜜柑是なり。三重縣の境に熊野川あり、大和より來りて、此に注ぐ、其の河口に新宮、中流に本宮あり、此の兩所には、那智山と共に、熊野の社ありて、世に熊野の三社と

稱す。那智には、世に著名なる那智瀧あり。熊野地方は、山林多くして、良材を出し、又木炭に熊野備長あり。

交通

和歌山より北西に、加太岬あり、淡路と對して、由良海峽をなし、其の間に友島相並び、砲臺ありて、大阪灣の口を守る。

位置

和歌山よりは、大阪及び大和に通じ、又海路航行到る處宜しきを以て、交通便利なり。

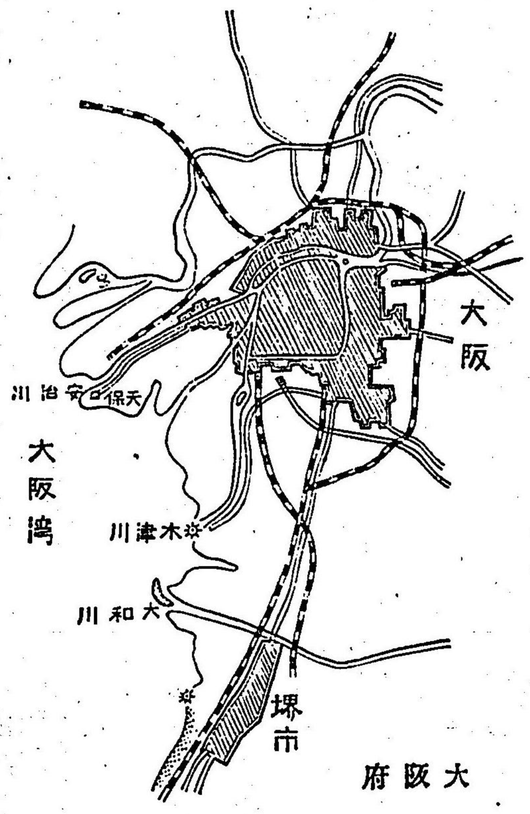
地勢

大阪府

大阪府は、西は大阪灣に臨み、東は奈良縣及び京都府に接す。河内和泉の南境を除く外は、一般に平野にして、淀川及び大和川、其の間を貫流す。淀川は、下流を安治川と稱し、共に大阪灣に注ぐ。

大阪市

本府は、攝津の一市四郡、河内の三郡及び和泉の一市二郡を管し、府廳は大阪市に在り。市は安治川に跨り、神武天皇御東



大阪府

征以來、浪速（なにわ）の國といひし處にして、（難波ともいふ）豐臣秀吉の築城以來大に繁榮を來し、今や人口八十萬以上に達して、關西商業の中心となり、紡績製造等の工業盛にして、煙突市外に林立せり。第四師團司令部及び造幣局等あり。其の河口は、古來外國交通の要津にして、今尚貿易港なり。神社の有名なるは、高津（かうづ）神社・天滿天神・生國魂（いくたま）等にして、佛閣は四天王寺・兩本願寺

の別院等著る。市中溝渠縱橫に通じ、橋梁殊に多く、中にも淀川に架けたる天滿・天神・難波の三大橋の如きは、最も有名なり。

堺市

堺市は、大阪市の南三里を隔てて、和泉の海岸に在り、足利時代には、明國と交通の要津にして、其の當時は、商工業大に開け頗る盛大なりしが、港口の埋まれると、大阪の繁昌に赴きたるとに由りて、次第に衰へ、復昔の盛況なし。市の産物としては、段通・刃物類あり。

交通舊跡名所

本府は、鐵道四通八達し、且淀川に舟行の便あり、灣内又汽船の往復頻繁なるを以て、交通甚だ便なり。舊跡には、金剛山あり、千早・赤坂二城阯あり、四條綴あり、諸帝陵あり。名所には、住吉濱寺等あり。

大阪以東の平野は、綿・菜種の栽培盛にして、從つて種油の製造多し。殊に綿は、其の産額海内第一にして、有名なる河内木綿は、是より織り出さるるなり。此の他府下の産物としては、「マッチ」・寒天・清酒・麥酒などあり、麥酒は、多く吹田にて醸造し、清酒は、池田に産す。近年池田には、更に由多加織の産あり。

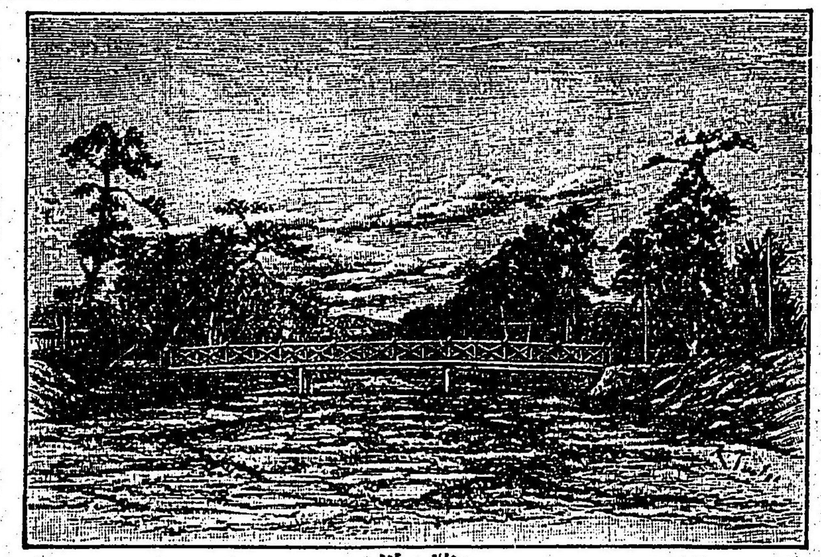
兵庫縣

位置地勢

兵庫縣は、北は、日本海、南は大阪灣と播磨灘とに面し、淡路島を擁して香川縣と對す。中央は、一般に山地にして、南北海岸及び加古川沿岸は、平地なり。

本縣は、播磨の一市十三郡・但馬の五郡・淡路一國、及び攝津の内一市三郡・丹波の内一郡を管し、縣廳は神戸市に在り。市は、元神戸・兵庫の二港を合併したる者にして、兵庫は由來最も古きも、神戸は維新前までは、僅に大阪灣頭の一漁村たるに過ぎざりしに、慶應年間開港以來、頓に繁盛になり、外國貿易

神戸市



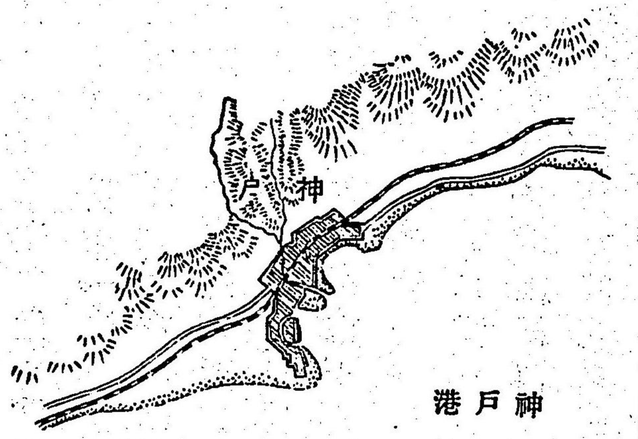
湊川

玉・神戸牛肉等と共に、何れも其の地名を冠するにても特有の産なるを知るべし。此の地の北但馬には、生野・出石・城崎の諸邑あり、生野は銀を出し、出石は陶器を出し、城崎には温泉あり。其の近傍に、岩石の奇觀を以て有名なる玄武洞あり。

姫路の西方に、龍野あり、其の南西に赤穂あり。龍野は醬油、赤穂は鹽を以て著る。

明石と相對し明石海峽を夾

福原
一の谷
伊丹
有馬
姫路市



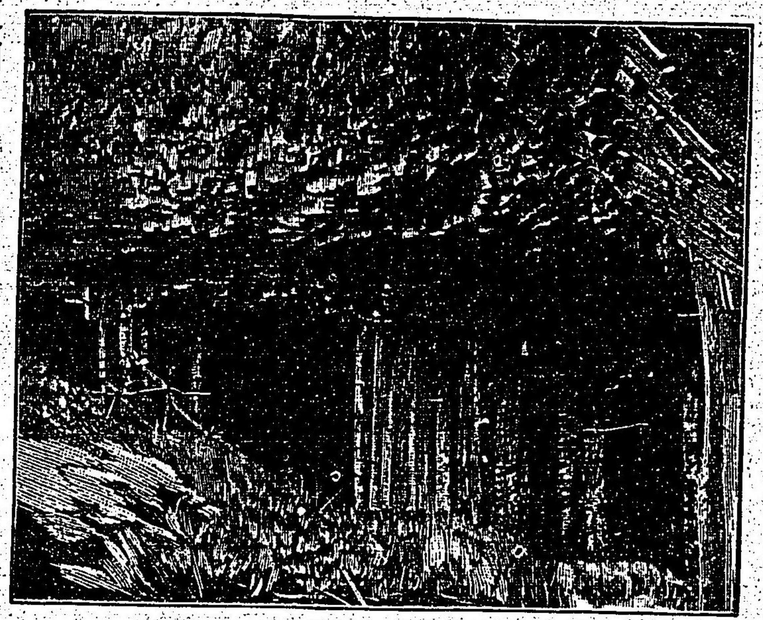
神戸港

姫路市は、播磨國中の大都會にして、第十師團司令部あり。元酒井氏の城下にして同藩が嘗て大ひに保護奬勵したりし姫路木綿は、今尚ほ其の名を墜さず。又姫路革は、明石縮・明石の活潑なること、横濱に比すべし。楠正成の忠死を以て著名なる湊川は、市中を貫流し、河東に湊川神社あり。神戸の西に須磨あり、此の邊りは、福原舊都及び一の谷・鵯越等、源平當時の古跡、甚だ多く、西方播磨の舞子・明石と共に、海濱の風景、古來最も著る。此の他酒造地として有名なる伊丹あり、又温泉を以て有名なる有馬あり。

みて、淡路島横はる。島は略三角形をなし、南東の角は、紀伊と由良海峽を成して、大阪灣の口を扼し、南西の角は、阿波と鳴門海峽を成して、瀨戶內海の口を扼せり、由良の北方に洲本港あり、鳴門海峽に近き福良と共に、此の國の名邑なりとす。

福良には、陶器琅玕燒を產し、多く淸國に輸出す。」

本縣南方は、海陸共に交通便利なりと雖も、北方は鐵路完成



玄武洞

せず、又船舶の航行十分ならざるを以て、甚だ不便なり。

第五節　中國

爰に中國とは、南の方瀨戶內海と、北の方日本海との間に、半島狀をなせる地域にして、山陰道の因幡以下の五國、山陽道の美作以下の七國、此の中に在り。鳥取・島根・山口・廣島・岡山の五縣。之を分管す。中央に中國山脈あり、南は瀨戶內海を夾みて、四國と對し、其の間島嶼夥し。故に此の地方の住民は、水上の動作に馴れ、中世海賊の、此等の島嶼に據りて、支那・朝鮮等の沿海を犯したるもの多く、彼の國人は、倭寇と稱して、甚だ之を恐れたりといふ。

鳥取縣

北は日本海に面し、南は岡山縣に、東は兵庫縣に、西は島根縣に界し、三方山岳を以て圍まれ、西部に大山（ダイセン）及び歷史上有名

の船上山あり。河の大なるものは、千代川及び日野川にして、共に日本海に注ぐ。

鳥取市

本縣は、因幡の一市三郡・伯耆の三郡を管し、縣廳は鳥取市に在り、此の市は、千代川の右岸に在りて、元池田氏の城市なり。米子は、夜見濱の頸部に位する名邑にして、商業盛なり。夜見濱は、風景佳にして、其の最北端に開港場なる境港あり。縣下の海中には、白珊瑚・海松等を産し。又大山原には牧牛盛なり。然れとも冬季寒くして、且交通不便なり。

位置地勢

島根縣

島取縣の西に在りて、北は日本海に面し、南は中國山脈を以て、廣島・山口二縣に隣る。管内山岳多く、簸川・神門川・江川の流域、及び海岸一帶に、狹き平野あるのみ。北方海上には、隱岐の國あり。

松江市

本縣は、出雲の一市六郡・石見の六郡と隱岐一國とを管し、縣廳は松江市に在り。此の市は宍道湖の東岸に在りて、東に中海あり。宍道湖は、風景最も佳く、湖中鱸・鰻・白魚等を産す。湖南布志名は、陶器を産し、玉造は瑪瑙を出す。出雲の玉は、古來有名なり。中海は島根半島と伯耆の夜見濱とを以て限らる。半島の東端を美保關といひ伯耆の境港と相對す。

出雲大社

出雲大社　海岸杵築には、出雲大社ありて、大國主神を祀る。石見には、邇摩銀山ありて、多額の銀を産す。尚縣下には、鐵の産出夥し。海濱の濱田は、開港場にして、廣島第五師團の分營あり。其の南西、長門に近き處津和野あり。

隱岐　隱岐は、日本海中の島國なり。嘗て後鳥羽・後醍醐兩天皇の遷幸ありし處にして、島前・島後の二部より成る。島後は、最も大にして、北に在り、此の中に西郷港あり。島前は、西島・中島・知夫利島等を總稱して、南に在り。全島の土地、耕耘に適せざれども、海産物頗る多く、中にも烏賊の漁獵最も盛なり。

交通　本縣は、鐵路の設計なきに非ざれども、未だ開通に至らず。南方は、山岳の爲めに阻害せられ、北方は、舟航尚稀疎なるを以て交通不便なり。

山口縣

位置　本縣は、中國の最西端に在りて、東は島根・廣島二縣に接し、北は日本海に、南は内海に面し、早鞆瀨戸を以て、福岡縣と對す。

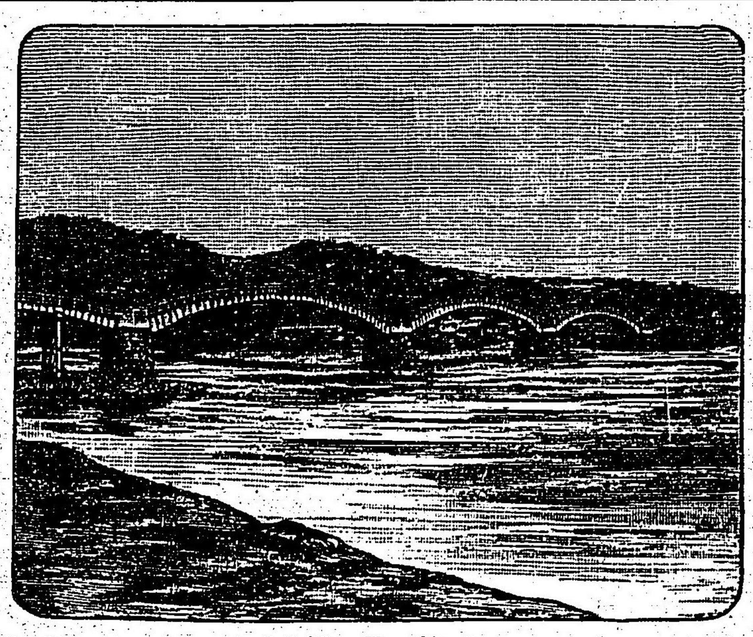
地勢　而して東方及び中央部は、山岳連亘せるも、海岸及び諸川の流域は、一般に平野なり。

山口　本縣は、周防の六郡・長門の一市五郡を管し、縣廳は山口に在り。山口は、足利時代に於ては、大内氏根據の地として、當時中國第一の要地なりしも、其の後久しく毛利氏の所領となり、現今は、山口高等學校・第五師團分營等あり。此の地は、維新前後に、多く俊傑の士を出せり。山口の南東三田尻は、食鹽の名産地なり。

下關市　下關市は、一に馬關と稱し、開港場の一たり。海を隔てて、豐前の門司と相對す。先年日清戰役の時、清國の媾和使李鴻章來りて、媾和條約を締結せし處なり。此の地硯石の名産あり、又近傍の山に石炭を産す。其東方は、卽ち壇浦にて平

埴浦

本縣北部は、交通不便なれども、南部は、海陸共に交通便にし



錦帶橋

家滅亡の處なり。日本海に瀕したる處に、萩町あり、元毛利氏の城下たりしも、土地僻遠にして、年々衰退の傾あり。南海岸には、德山、岩國あり、岩國は、元毛利家の支藩吉川氏の城下にして、岩國川の左岸に在り、岩國縮岩國半紙の産あり。岩國川には、古來有名なる錦帶橋を架す。

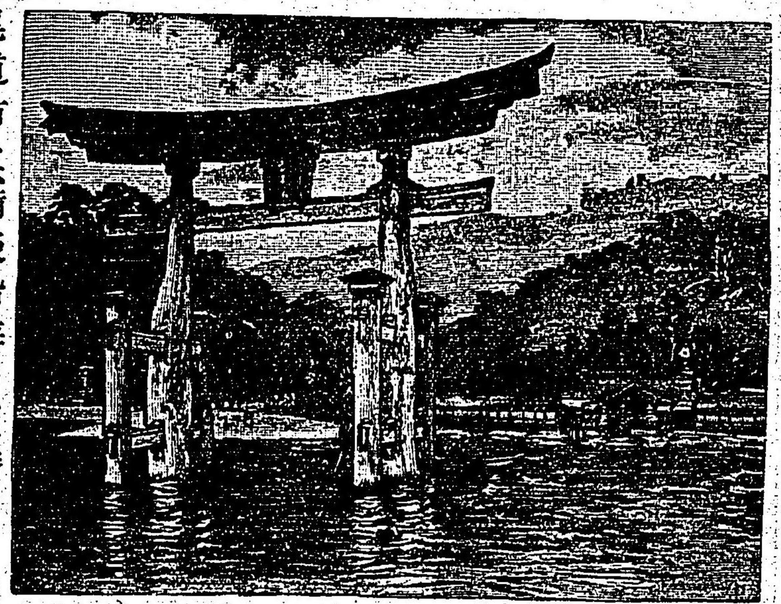
て、沿海の地は、鰯、乾鰡等の海産多く、又陸産には、長州蜜柑、米穀等あり。

廣島縣

山口縣の東、岡山縣の西に在りて、北は島根縣に界し、南は内海に面し、太田川、蘆田川の灌域及び海岸を除く外は、一般に高地なり。

本縣は、安藝の二市七郡及び備後の一市九郡を管し、縣廳は廣島市に在り。廣島市は、太田川の下流に在て、元淺野氏の城下たりしが、今は廣島高等師範學校、第五師團司令部等あり。二十七八年戰役に際しては、大本營を此に進められ、大元帥陛下の御親征あらせられし所にして、中國第一の都會たり。廣島灣内に嚴島神社あり、殿廊海に臨み、滿潮の際には、恰も波に浮べるが如し。風景絶佳、日本三景の一と稱す、名産に

呉市
江田島
尾道市



尾道市は、備後沿海の良港なり、其の前方なる因島は、中世海賊の根據地たりといふ。福山は、蘆田川の下流に在りて、元阿部氏の城下なり。其の南西鞆津は、亦有名なる港にして、名物保命酒あり。尾道の南西には、貿易港なる糸崎あり。本縣下有名の産物は、備後表・花莚にして、尚食鹽及び魚類を産す。

岡山縣

位置
地勢

岡山縣は、廣島縣の東、兵庫縣の西に在りて、北は鳥取縣に接し、南は内海に面し、兒島半島中に突出せり。北半は山地なれども、南半は平野多く、河邊川・西大川・東大川、其の間を灌漑し、共に内海に注ぐ。

岡山市
後樂園

本縣は、備前の一市八郡、備中の十一郡・美作の十二郡を管し、縣廳は岡山市に在り。市は元池田氏の城下にして、西大川市内を貫流し、日本三公園の一として稱せらるる後樂園及び

竹木の細工あり。

嚴島

廣島灣は、帝國海軍の中央根據地にして、且牡蠣の養殖所あり、冬期に至れば、多く之を大阪地方に運送す。宇品港は灣内に在り、國音「得支那」に通じ、征清軍隊多く此より發して、大捷を得たり。南東吳市に、軍港あり、其の前面なる江田島には、海軍兵學校あり。

第六高等學校・醫學專門學校等あり。市の北東、東大川の上流に、津山あり、中國鐵道既に岡山より此の地に通じ、他日將に伯耆の米子に至らんとす。津山の西方に院莊あり。笠岡・玉島は、共に瀨戸內海の要津にして、玉島より讃岐多度津へは、毎日數回汽船の往復あり。其の前面の海を水島灘と云ひ、河邊川是に注ぐ、川の上流に高梁あり、倉敷より鐵道布設の豫定あり、此の地麥稈眞田を産す。其の下流附近には、花莚備後表の産多し。美作には雲齋木綿及び烟草の産あり。沿海の地は、一帶に魚鹽の利あり。

第六節　四國

四國は、瀨戸內海を夾みて、中國に對し、東は紀伊に、西は九州に、何れも海峽を以て相對し、南は太平洋に面せり。中央に四國山脈連亘して、土地を南北兩部に分つこと、略中國の地勢に似たり。中に四箇國あり香川・德島・高知・愛媛の四縣之を分管す。

香川縣

位置
地勢
高松市

香川縣は、北は內海に面し、南は讃岐山脈を以て、德島縣に界し、北部海岸は、一般に平野にして、中に白峰・五劍山あり。本縣は、讃岐の一市七郡を管し、縣廳は高松市に在り。高松市は、元水戸の分家たる松平氏の城下にして、其の栗林公園は、幽邃を以て稱せらる。其の東方に屋島あり源平二氏の古戰場にして、安德天皇行在所の跡あり。此の地前面に、小豆島を始めとして、大小無數の島嶼を望み、左方に、高松を瞰下して眺望絶佳なり。國の西方觀音寺の邊も、亦眺望を以て名あり。凡そ瀨戸內海沿海の地は、何れも好景に富む、蓋し島嶼の海面に橫はるもの多きと、海濱の白砂青松相映ずるに由れる

ものにして、其の原因、一に花崗石の多きに基けり。小豆島も亦花崗岩より成れるを以て、石材小豆島石を産す。

多度津　多度津は、瀬戸内海航通の要津にして、玉島との交通頻繁に、且中國通ひの汽船、多く此の港を經由す、讃岐鐵道は、東方高松市より起り、白峰を右に見、坂出・丸龜を經て、此の地に至り、

琴平　更に善通寺を經て琴平に至る。琴平には、金刀比羅宮あり、俗に金毘羅と稱し、信者甚だ多し。

丸龜　丸龜には、第十一師團司令部あり。善通寺に同名の寺あり、弘法大師誕生の地と稱す。

高松より東、志度・引田の名邑を經、讃岐山脈を越えて、阿波の德島に通ずべし。縣下面積狹く、僅に東京府下に過ぐる程なれども、田園よく開けて、人口多く、産物も、食鹽・烟草・砂糖等甚だ多し、殊に砂糖は、其の産額、全國に冠たり。

德島縣

位置地勢　德島縣は、北は讃岐山脈を以て讃岐に隣り、東は太平洋及び鳴門海峽に面せり。四國山脈、國の中央を走りて、地を南北に分つ。西の方高知の境に、劍山及び阿土山脈あり。川の大なるものは、四國三郎の名ある吉野川にして、其の流域地方、多量の藍を産す。

德島市　本縣は、阿波の一市十郡を管し、縣廳は德島市に在り。此の市は吉野河口に在りて、元蜂須賀氏の城下なり。近年多く纖織・綿「ネル」を産す。吉野川沿岸に、脇町・半田あり、半田は半田椀を産し、其の上流の池田は烟草を産す。池田より南東祖谷山村あり、祖谷川是より出でて、吉野川に注ぐ、川は斷崖絶壁の間を流れ、蔓橋を架して、交通をなす、中には長さ三十餘間に及ぶものあり。德島の北に撫養あり、齋田鹽を産す、此の地鳴門を夾みて、淡路に對す。鳴門は、瀬戸内海の口に方り、干潮の際、

外洋の水、內海の水と平均を失ふが故に、急流になり、海面渦巻をなす、航海者の難所たり。此の處より出す鯛を鳴門鯛と云ふ。

南方は、主として、那賀川の流域地方にして、小松島・橘・富岡等の名邑あり。北方、吉野川平野と共に、砂糖の産出少からず。南岸海部地方は、漁業盛にして、小舟を以て大阪に輸出す、中にも煮乾鰛の如き、其産額多し。

本縣鐵路は、僅に德島船戸間に通ずるのみなるを以て、交通

不便なり。

高知縣

位置
地勢

高知縣は、三方は、愛媛・德島二縣に限られ、南一帶のみ太平洋に面す。北には四國山脈あり、東には阿土山脈あり、室戸・蹉跎の兩岬、南方に突出して、土佐灣を擁し、仁淀川・渡川其の間を流れ氣候溫暖なり。海中に珊瑚の產あり殊に南西隅なる柏島を多しとす。又鯖・鰹の漁獵、殊に多く、土佐節の名世に高し。

高知市

本縣は、土佐の一市七郡を管し、縣廳は高知市に在り。市は土佐灣より入れる浦戸灣に瀕し、元山內氏の城下にして、今第十一師團の分營あり。土佐紙は、舊藩の保護に由りて盛大を致せるものにして其の產額內國に冠たり。此の國は南海に偏して、他國との交通不便なれば、住民の風俗、從つて質朴な

り。

愛媛縣

位置
地勢

愛媛縣は、南は土佐と四國山脈を以て相接し、東は阿波讃岐に隣り、西方は、豐豫海峽及び速吸海門を夾みて、九州に對し、北は内海に面す。海岸及び肱川沿岸は、一般に平地なり。中部には、石鎚山あり、四國著名の休火山なり。其の東なる別子銅山は、多額の銅を産し、産額足尾に亞ぐ、又市川鑛山はアンチモニーを出す、其の結晶の大にして美なる、世界有數のものなり。

松山市

本縣は、伊豫の一市十二郡を管し、縣廳は松山市に在り、第十一師團分營の所在地にして、北東に道後あり、古來有名の溫泉場なり。松山の北東に今治あり、北西に三津濱あり。縣の南西部に八幡濱、宇和島あり、何れも沿岸の要港なり。八幡濱より西方、佐田岬長く突出して、豐後の佐賀關と相對す。神武天皇の通過し給ひし速吸門は、此の處なりといふ。

縣下の産物の重なるものは、銅、アンチモニー、生蠟、砂糖等なり。又砥部の砥部燒、宇和島地方の半紙、松山の伊豫絣、亦有名なり。

本縣は、松山附近のみ僅に鐵路の通ずるあり、其の他は總べて交通不便なり。

第七節　九州

九州は、古代筑紫の島といひ四國、中國の南西に在りて佐賀關海峽と早鞆瀨戸とを以て、瀨戸内海の西口を扼せり。西海岸は、出入殊に多く、島嶼峽灣數を知らず。北西には、壹岐、對馬の二島あり南西には、薩南諸島及び琉球あり。氣候、南部は、熱帶に近きを以て、一般に熱く、北部は、南部に比して稍凉しく、

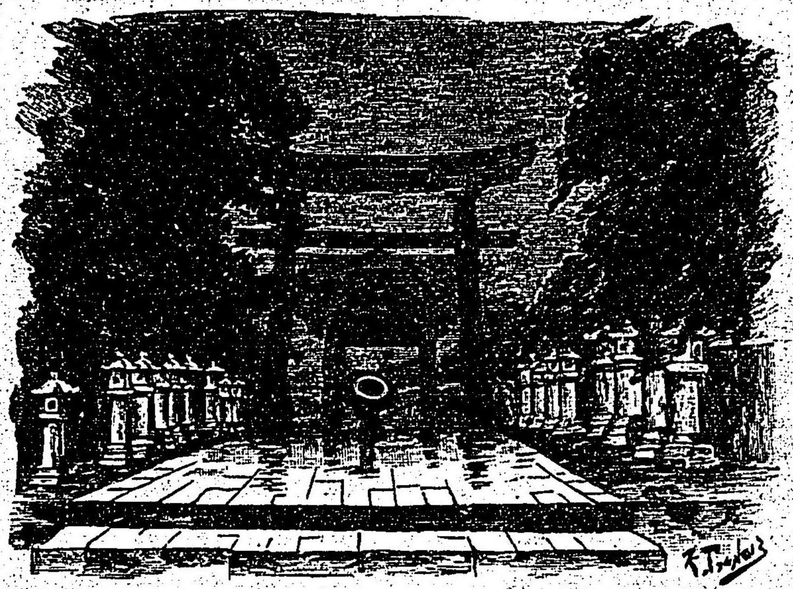
位置
地勢

中央なる肥後は、冬夏の溫差甚だしく、大分・福岡・佐賀・長崎・熊本・宮崎・鹿兒島・沖繩の八縣之を分管す。

大分縣

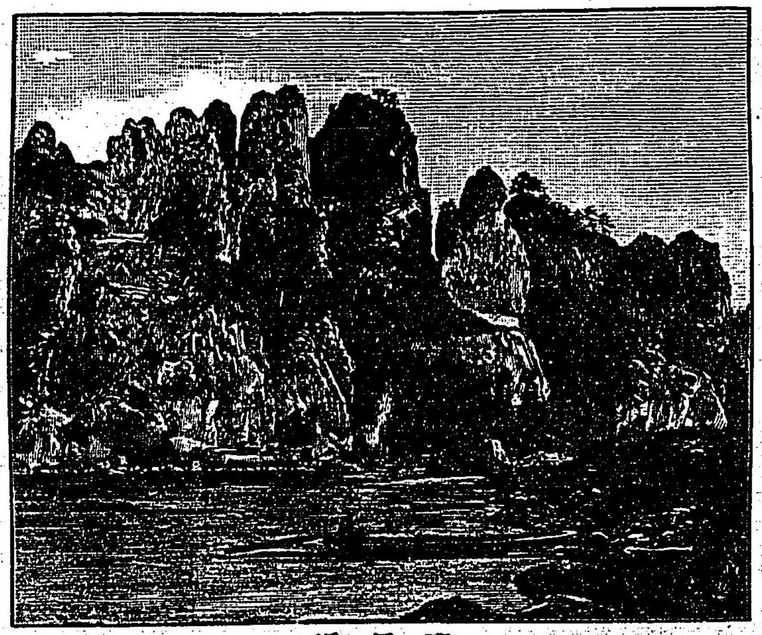
大分縣は、九州南北兩山脈の間に在りて、東は內海に面し、西は福岡・熊本二縣に接し、南は宮崎縣に界す。阿蘇火山脈通過の衝に當り、九重・鶴見・由布・兩子等の舊火山相並び、平地極めて少し。國東

宇佐八幡宮



大分
別府

宇佐八幡宮



耶馬溪

半島周防灘に斗出し、佐賀關東方に突出して、別府灣を成す。佐賀關以南は、海邊出入多きも、良港なし。

本縣は、豐後の十郡及び豐前の內二郡を管し、縣廳は大分に在り。其の北西に別府溫泉場あり、大分との間に電車を通ず。別府より、北方國東半島の頸部を過ぐれば、宇佐あり。茲に歷史上有名なる宇佐八幡宮あり。宇佐より北西に中津あり、中

津は、山國川の下流に臨み、小倉織を産す。山國川の上流に山國谷あり世之を耶馬溪と稱し、景勝を以て名あり、其の水源地方英彦山の上に英彦神社あり、又大野川の上流に、竹田あり、南東に白杵・佐伯等の名邑あり。

地勢位置

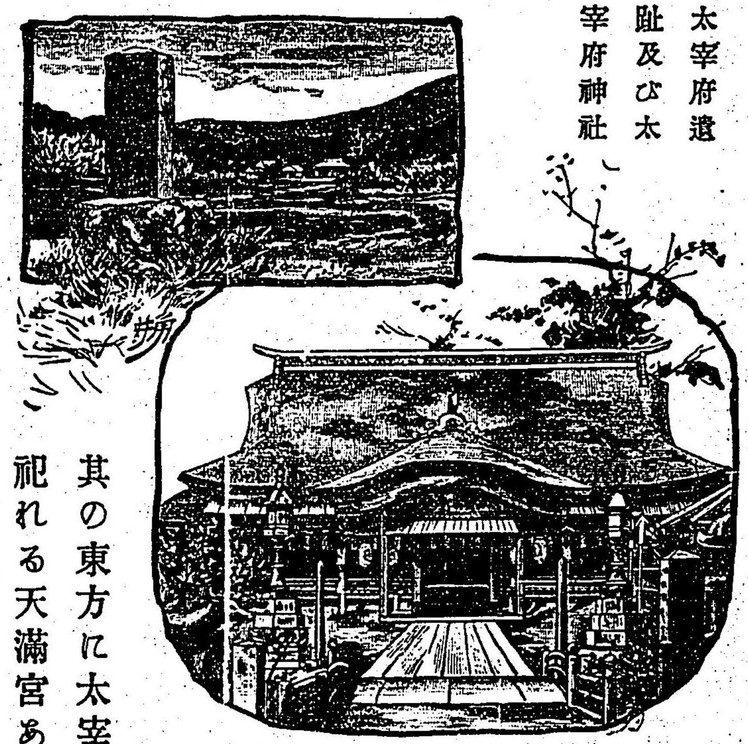
縣下の地、瀬戸内海に瀕するが故に鹽及び鯛は、産物の主要なるものなり。其の外には、蔭生蠟及び九重山地方の硫黄等あり。

福岡縣

福岡縣は、九州北部の山脈、中央に蟠るも、南北は一般に平野にして、遠賀川・筑後川之を灌漑し、南西一部、有明海に望み、北部は、響灘・玄海灘に瀕し、南方は熊本縣に、西方は長崎縣に接せり。

本縣は、筑前の一市九郡、筑後の一市六郡及び豐前の内二市

四郡を管し、縣廳は福岡市に在り。福岡は、元黒田氏の城下にして、今は舊城内に第十二師團の分營及び醫科大學あり。元來此の市は、福岡と博多とを合したるものにして、商業繁盛博多織を以て名あり。是より九州鐵道に因りて南すれば、二日市に至る。其の東方に太宰府あり、菅原道眞を祀れる天滿宮あり、近傍に都府樓の



太宰府遺趾及び太宰府神社

久留米市　遺阯あり。又南に久留米市あり、久留米は、元有馬氏の城下にして、久留米絣の名産地なり。此には第十二師團の分營あり。此の地方一帶の平野は、謂はゆる筑後米の産地にして、其の産額甚だ多く、從つて清酒の釀造盛なり。米の外は、藍・油菜・呉座等、亦重要の産物なれども、縣下第一の産物は石炭にして、方今全國産の殆と四分の三を出すといふ。凡そ九州北部の山脈は、多く石炭層を含み其の最も著れたるは、肥後の境に近き三池炭山、及び遠賀川上流地方の炭田とす。

箱崎、香椎　福岡より北東に箱崎・香椎あり、箱崎には、八幡宮あり、香椎は、神功皇后を祭れる香椎宮あり、共に景勝の地なり。香椎の北東に折尾あり其の東に若松港・小倉市あり若松の南八幡村には、近年製鐵所を設けられ、小倉には、第十二師團司令部あり市中多く小倉織を出す。其の南東行橋は、此の地方の

門司市　名邑なり。其の北東門司市は平戸瀬戸を以て、山口縣の下關と對して貿易港なり。

管内、鐵路縱横に貫通するを以て、交通甚だ便なり。

佐賀縣

位置　佐賀縣は、筑後川を以て東方福岡縣と界し、南方は有明海に面し、北方は松浦潟に臨み、西方は長崎縣に接す。東境に、九州北部の山脈あり、而して有明海岸一帶は、平野なり。

地勢　本縣は、肥前の内一市八郡を管し、縣廳は佐賀市に在り。佐賀市は、元鍋島氏の城下にして、平野の中央に在り。牛津・武雄有田等は、何れも名邑なり、武雄は、温泉を以て著れ有田は、陶器を以て知らる。有田の北に、伊萬里あり、陶器の發賣夥し。牛津の北西唐津港は開港場にして、陶器及び石炭を以て著る、其の北方松浦潟は、古へ渡韓の要津にして、領巾振山は、大伴狹

佐賀市

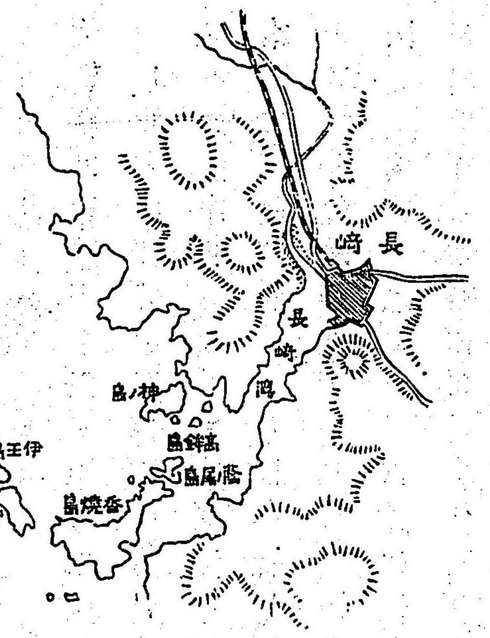
伊萬里

領巾振山

名護屋　手彦が紀念を止め、名護屋は、秀吉征韓の際の本營地たり。

長崎縣

位置　長崎市



本縣は、肥前の二市六郡及び壹岐・對馬二國を管し、縣廳は長崎市に在り。長崎市は、元五港の一にして、製船所あり、醫學校あり、貿易の額は、遠く橫濱・神戸に及ばざるも、浦鹽斯德・朝鮮・支那其の他西洋諸國交通の衝に當るを以て、頗る繁華なり。

長崎縣は、佐賀縣の西方に在りて、西部には平戸・五島等の島嶼多く、北方には壹岐・對馬の二島國あり。彼杵半島、海中に突出して、大村灣を爲し、島原半島斗出して、有明海を擁し、海岸線の延長全國に冠たり。

佐世保市　此の地は、德川時代を通じて、支那・和蘭との貿易港たりしかば、古來海外の知識は、多く此より輸入せられたり。產物には、烟草・甘藷あり、其の西方の高島は、良質の石炭を產するを以て名あり。是より東、天草洋を夾みて、島原半島伸出し、其の中央に溫泉岳あり、山麓溫泉を生ず。此の地方は、肥後の天草と關聯して、有名なる島原亂の古蹟たり。其の南岸なる口之津も、亦一の開港場なり。長崎市より、大村を經て西すれば、佐世保市に達すべし、此の市は元來一漁村なりしが、近來軍港となりて、大に繁榮に赴けり。大村には、第二十三旅團司令部あり。其の他西海中の五島の福江・壹岐の勝本・對馬の嚴原・鹿見・佐須奈等は、皆良港たり。中にも嚴原以下の三港は、何れも開

港場なり。

縣下の地、海岸線長きが故に、至る處漁業の利多く、五島には、鯨及び烏賊の獵あり。對馬の海岸には、鰤及び海參、海膽の捕獲多く、干鮑、魚翅等と共に、重要の物産たり。

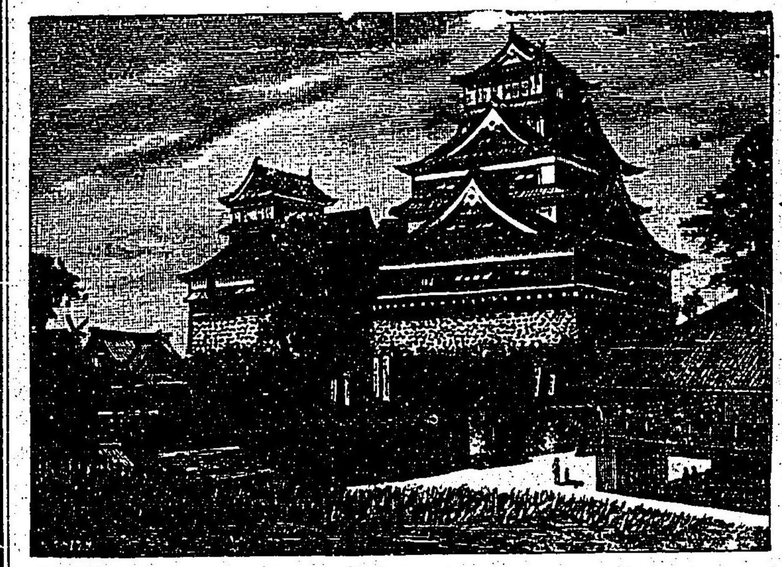
壹岐、對馬の二島は、邊要の地なれば、古は防人を派して之を守らしめしが、今は對馬及び五島に警備隊あり。

熊本縣

位置
地勢

熊本縣は、西は有明海、八代海等の內海を夾みて、肥前に對し、其の間に天草群島あり。東、南は、九州南部の山脈及び阿蘇火山脈ありて、大分、宮崎、鹿兒島諸縣と界し、北は福岡縣に接し、西部沿岸は、一帶に平野にして、綠川、白川、菊地川、其の間を貫流す。

本縣は、肥後の一市十二郡を管し、縣廳は熊本市に在り。熊本市は元細川氏の城下なり。其の熊本城は、昔加藤清正、此の地に封を受けたる時、築きたる所にして、西南の役、包圍を受けたるを以て名高く、今第六師團の本營たり。市の東に、第五高等學校あり。



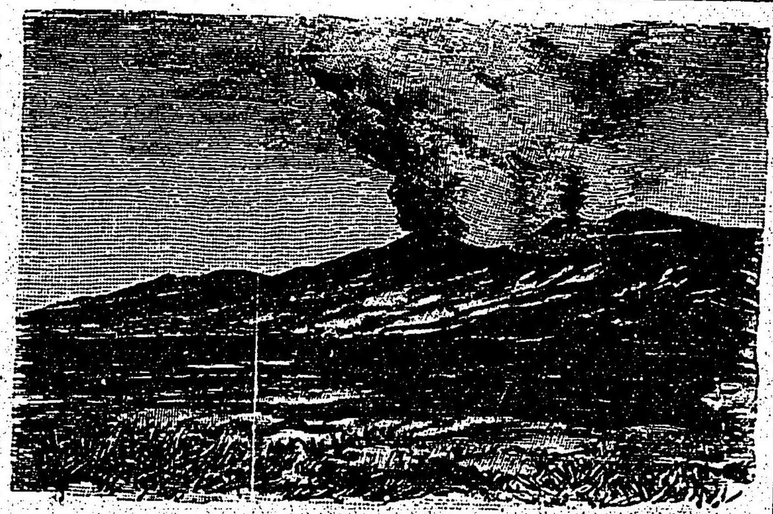
熊本城舊景

今や此の市は、九州學問の中心となれり。此の附近は田園能く開け、米、麥、甘藷等、農產物を產し、又盛に藺を栽培す。

熊本市の南方宇土半島には、開港場なる三角港あり

球摩川

五家莊



白川、此より出でて西流し、熊本を過ぎて海に入る。附近に溫

山火蘇阿

其の南八代は、球摩川の口に在り、此の川は日本三急流の一にして、舟行危險なれども、頗る奇景に富み、其の中間の右岸に、八吉（ヒトヨシ）あり、元相良氏の居城たり。五家莊は、其の上流地方の稱にして、日向境の山中に在り、阿波の祖谷山と共に、平家の落人の隱れし處と云ひ傳ふ。熊本市の東方豐後に近き處阿蘇火山あり。舊火口の直徑凡そ七里に達せり。

田原坂

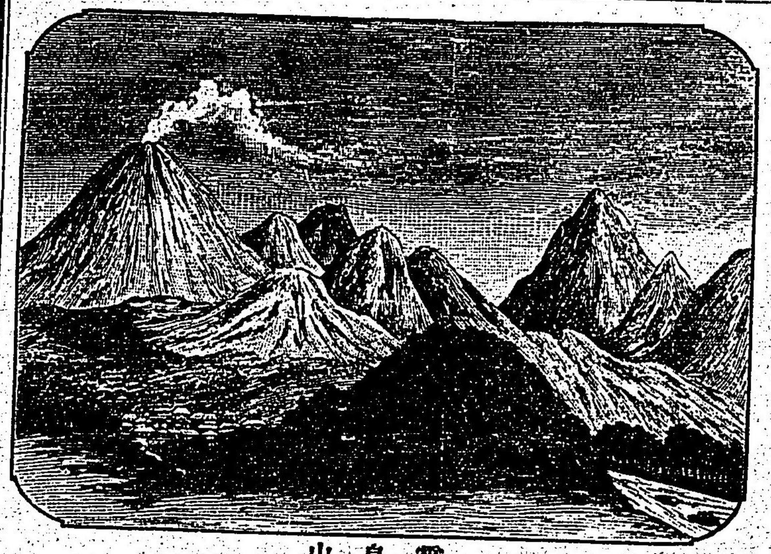
田原坂及び紀念碑

泉多し。又熊本の北方に、田原坂あり、十年戰爭の時、激戰ありし處にして、當時の彈痕今尙見るを得べし。

天草島は、上下二島より成り、富岡町山口は其の名邑なり。縣下の生產物には、燒酎・赤酒・朝鮮飴・疊表等あり、陶器も多少製出す。

宮崎縣

位置
地勢
宮崎
宮崎宮



宮崎縣は、東は太平洋に面して、直ちに日出に向ふを以て、日向の國名あり。北は大分縣に接し、九州南部山脈・霧島火山群及び小松山脈を以て、三方を包圍せられ、東方沿海一帶平野なり。

本縣は、日向八郡を管し、縣廳は宮崎に在り。宮崎は、大淀川の左岸に在りて、其の北方大宮村に、神武天皇を祀れる宮崎宮あり。宮崎より北、一瀬河

畔に佐土原あり、大丸川に近き處高鍋あり、五箇瀬川の下流に延岡あり、共に舊城下の地にして、南西の都城と共に、國中の名邑なれども、人口は、何れも多からず。

縣下の南西隅に、霧島山あり、東西二峰に分れ、其の東嶽は、天孫の降臨し給ひし高千穗峰なりといふ。然れども、又五箇瀬川の上流高千穗村を以て天孫降臨の地となす說あり。霧島の東麓に、狹野神社あり、神武天皇御降誕地と稱す。

日向は、西境に九州南部の山脈あり、南北二方も、亦山嶽重疊して、交通不便なり。海岸に細島・油津二港あれども、船舶の碇泊十分ならず、且土地廣けれども、人口少く、北海道と岩手縣を除けば、我が國中、人烟の最も稀なる地方なりとす。然れども古代に在りては、最も早く史上に著れ、我が國天孫種族勃興の本源地たり。次いで神武天皇東征後は、熊襲種族の代り

高千穗峰
狹野
交通

て此の邊に據りしこと、亦史上に明かなり。

産物には、日向炭・椎茸・茶・木材等あり、都城には、萬年青を産す。

鹿兒島縣

位置

地勢

鹿兒島縣は、九州の最南端に在り、北は熊本縣に、東は宮崎縣に接し、二大半島、太平洋中に突出して、鹿兒島灣を擁す、地勢、北方には、九州南部の山脈及び霧島火山群あり、南方には、高隈山等あるを以て、平地甚だ少し。域内火山多く、櫻島及び開聞岳の如き、其の主なるものなり。

鹿兒島市

本縣は、薩摩の一市七郡・大隅の五郡を管し、縣廳は鹿兒島市に在り。市は、元島津氏の城下にして、鹿兒島灣に臨み方今第六師團の分營・第七高等學校あり。市の北西に、城山あり、西鄕隆盛戰死の地として名あり。市の東鹿兒島灣内の櫻島は、山上常に噴煙せり。市の北西に、伊集院(イジヤイン)あり、薩摩燒を出す。國分

城山

薩摩燒

國分

は、鹿兒島灣の北邊に在り、古來國分烟草の産地として著名なり。

縣下産物の重なるものは、薩摩絣・薩摩燒・櫻島大根及び蜜柑砂糖・甘藷・黄金・燒酎等なり、殊に黄金は、鹿籠(カゴ)・芹野(ヒリガノ)・羽島・山野(ヤマガノ)等處々の金山より出で、其の産額、北海道に次ぐ。

薩南諸島

薩隅兩半島の南には、大小數多の島嶼、相並びて琉球に連なる之を薩南諸島と云ふ。其の中銃砲の傳來を以て有名なる種子島と、九州第一の高山八重岳の在る屋久島との二大島は、古來大隅に隷し、其の南の川邊七島は、薩摩に屬せしも、夫より南方庵美(アマミ)群島は、琉球に屬したり。然るに慶長年間、島津家久琉球を征して、大島以下の五島を收めてより、今尚鹿兒島縣の管下たり。群島中、大島最も大にして、周圍七十餘里あり、大島紬及び芭蕉布を産す。大島の東に、喜界島あり、平康賴・

喜界島

僧俊寛等の流謫せられたる島は是なりといふ。大島の南に、興論島・德島・沖永良部島等あり。永良部鰹は、沖永良部島に産す。大島の北に、諏訪瀨島・寶島等の十餘島あり之を川邊七島と稱し、七島表を産す。其の外薩摩川内の西に甑島あり、鹿兒島縣に屬す。

沖繩縣

沖繩縣は謂はゆる琉球諸島を管す。琉球諸島とは、薩南諸島に連なりて、南西海中に羅列せる五十五個の島嶼を總稱するものにして、之を沖繩群島・先島列島の二つに分つ。前者は、沖繩島最も大にして、周圍百十里餘、分ちて國頭・中頭・島尻の三部とす。後者は、宮古群島・八重山群島の別あり。中にも宮古島・石垣島・入表島大なり。琉球諸島は、元薩南諸島と一列のものなるを、斯く區別したるは、唯古來行政上の習慣に從へるのみ。

首里中山門

本縣は、二區五郡を管し、縣廳は、那覇區に在り。那覇は島尻に在る良港にして、大阪・神戸より鹿兒島を經て、毎月數回、汽船の往復あり是亦開港場なり。

那覇の北一里餘に首里區あり。舊王城の地なり。其の西泊村に崇元寺あり、舜天王より前國王まで、三十餘世の祠廟あり。島内多く甘藷を栽培す、之を琉球芋といふ、世俗薩摩芋ともいふは、元琉球より薩摩に渡り、遂に全國に及びたるを以てなり。薩摩

絣と稱する木綿絣も、亦多く此の地より産す。其の他芭蕉布・砂糖・紬・泡盛・塗物等の産あり。此の國は熱帶に近けれども、海島なるが故に、常に涼風吹きて、氣候溫和なり。但時々颶風の襲來することあるが故に、一般に家屋を低くし、或は石垣を繞らして、之に備ふるものあり。住民の風俗は、衣服は平袖にして、帶を前に結び、男子も頭髮を束ねて、簪を挿す。簪に金・銀・銅及び木製の別あり、以て階級を分つ。又一般に男逸し女勞し、下民は大抵跣足を常とす。而して其の言語、亦頗る內地と異なり。されば琉球人は、一見內地人と其の種族を異にするが如き處あるも、精密に之を觀察すれば、其の言語は、明かに我が國語の轉化せるものにて、風俗も亦然りとす。唯久しく海島に在りて、他と隔絶せしが故に、此の相違を來せしものにて、元天孫種族と其の流を同じくするや、疑なきが如し。

位置
地勢

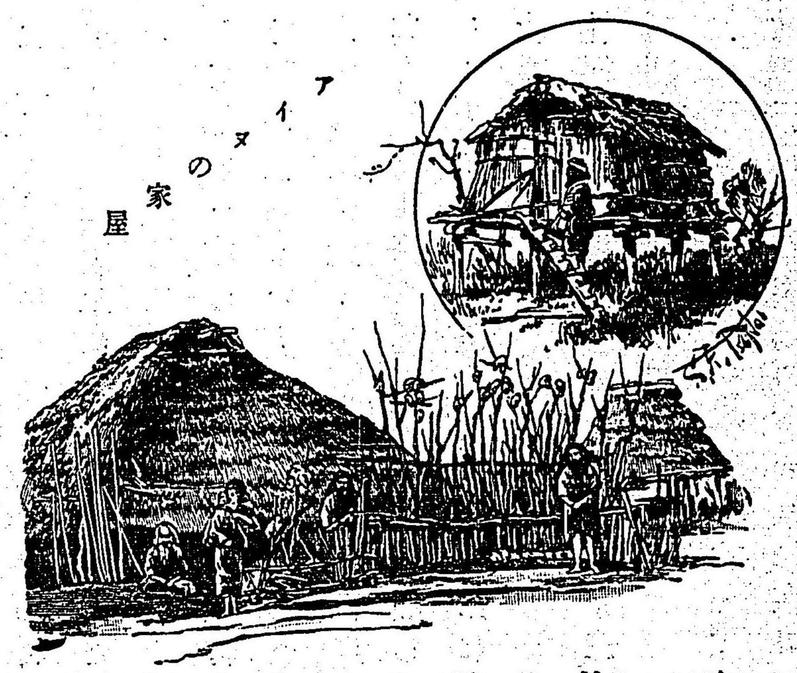
第八節　北海道

北海道は蝦夷島(一に十州島)及び千島列島の二部より成り、津輕海峽を隔てて本州の北東に在り、蝦夷山脈、南北に通じて蝦夷を東西に分ち、又千島火山脈、北東より來り、戸牛岳・跡左岳・雄阿寒岳・雌阿寒岳等を起して、十勝岳に連なり、以て東部を更に南北に分つ。千島は、蝦夷の北東に羅列して、堪察加に連なる火山列島なり。此等の地は、北方に在る故、氣候概して寒冷なれども、堪へ難き程に非ず。大河の邊は、廣野多くして、將來の開拓を待つもの少からざれども、未だ交通の不便なると、水利の治らざるとに由りて、大に開拓の進歩を妨ぐるものあり。他日北海道鐵道全通し、治水工事成工せば、其の面目、更に一新するものあらん。山中、金及び石炭の産出夥しく、沿海の地、亦水産の利に富み、鰊・昆布・鱈・鮑・鰒等の收益甚だ

を撫してより、漁業の利を追ひて、移住するもの益多くなれり。幕府の時露西亞人來りて、此の地を窺ふに及びて、大に之が警備を務め、特に吏を派して、沿海及び內地を探檢せしめ多し。

此の地は、古へ蝦夷島と稱し、アイヌ種族の居住に委したりしが、足利時代より、漸次內地人の移り住するものあり、後松前氏渡島の福山に據りて、島民アイヌ人

アイヌの家屋



たり。明治維新後、之を北海道と改稱し、分ちて十一國となし、開拓使廳を札幌に置きて、之を管し、北蝦夷卽ち樺太島には、露人の雜居を許し、支廳を島の南岸楠子谷に置きて、之を治せしが、明治八年、露國と約して、之を千島の得撫島以北の諸島と交換せり。爾來開拓の業大に進み、明治十年には、人口僅に十七萬餘

に過ぎざりしに、今や全道七十餘萬に達したり。

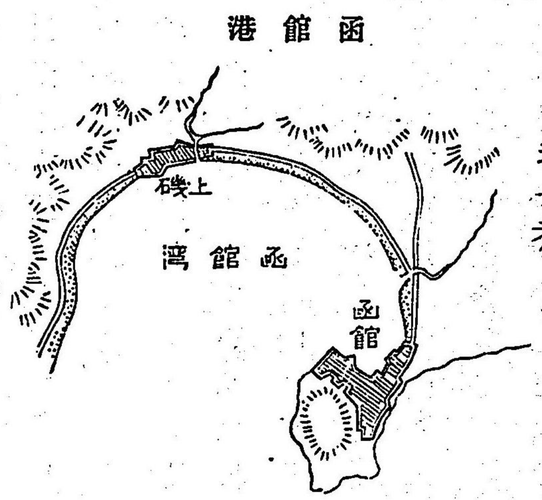
アイヌとは、史上に東夷又は蝦夷と稱するものにして、黑色なる毛髮、鬚髯の甚だ多きと、眼窩の凹めるとに由りて、一見して他の種族と分つべし。殊に鬚髯は、最も之を愛惜し、垂れて胸を蔽ふもの少からず、故に古へ一に毛人の稱ありき。婦人は、口邊に黥する習慣あり。上世は、廣く本州にも蔓延して、其の勢甚だ強く、屢天孫種族と烈しき爭ひを爲しし事ありしも、天孫種族の隆盛と共に、次第に北東に退去し、今は僅に北海道土人として、大約一萬七千餘の人口を有するのみ。

札幌に、北海道廳ありて、十九支廳、三區を管す。今は便に由り、國別に其の地理を記述すべし。

渡島、後志及び膽振國

此の三國は、蝦夷島の南西端に在りて、一大半島を成し、本州

函館區



の北端と對す。土地火山多く、樽前岳、惠庭岳、マカリ岳、有珠岳、駒岳、惠山等の火山、內浦灣を擁して、前後に聳立す、故に內浦灣を一に火山灣と稱す。樽前、惠庭、兩山の間に、支笏湖あり、有珠岳の北に洞爺湖あり、周圍各七里、風勝多し。

マカリ岳は、俗に後方羊蹄と云ふ。其の形極めて秀麗なる圓錐狀の火山にして、本州の富士山に類す。故に或は、之を蝦夷富士と稱す、高さ六千四百餘尺半島部の最高山なり。

渡島は、最南に函館區あり、ここには舊五港の一なる函館あ

りて、維新前函館奉行を置きし處なり。函館は北海道に於ては第一の繁榮なる地にして、青森を距ること、凡そ五十五海里、函館支廳ありて、之を管す。

其の北一里餘に、五稜廓ありて、今は有名なる製氷地たり。是よ形を以て稱す。維新の際、榎本釜次郎等が據守せし處にして、

松前

り北西七飯村を經れば、内浦灣上の森港に達すべし。森港は、室蘭港に對して、内浦灣の要津たり。他日鐵道函館より此の地を經て、小樽に布設せらるゝ渡島の南西瑞に福山あり、元松前と稱して、松前氏の城下なりしが、今は有名なる鰊の漁場となり此に松前支廳あり。是より北日本海岸に、江差、壽都、岩内の要津あり、壽都は砂金を以て、岩内は炭山を以て著る。是より北東積丹半島を過ぐれば、小樽區あり、此の區は、日本海岸に於ける第一の要津にし

小樽區

て、繁華函館を凌がんとす。炭鑛鐵道是より起り、札幌を經て、石狩諸炭山に通じ、又南東室蘭港に達す。されば石狩諸炭山の石炭は、鐵道の便に由りて、容易に小樽、室蘭の兩港に致さるゝべく從つて前者は開港場となり、後者は特別輸出港となれり。室蘭は又軍港にして、内浦灣口に在り繪鞆岬、港口を擁せり、多く海膽を産し、又灣の西岸に砂鐵の産あり。室蘭より發せる鐵道は、海岸に沿ひて、苫小牧に至り、是より内地に向ひて、石狩の國に至る。

炭鑛鐵道

室蘭港

炭山

石狩國

石狩は、日本第一の長流なる石狩川の流域地方にして、其の東方の山脈、石炭に富み、夕張、幌内、郁春別、空知等、皆著る。室蘭及び小樽より來れる鐵道は、支線を此の各炭山に岐出して、運輸に供す。

札幌區

北海道廳

札幌區は、石狩平野の西方に在りて、石狩川の支流豐平川に沿ひ、街衢井然として、其の繁華函館に次ぎ。北海道廳・農學校其他製麻會社・ビール會社等ありて、實に北海道開拓の中心たり。

石狩川

石狩川は、石狩岳より發し、南西に流れて、上川地方の廣野を過ぎ旭川・神居古潭等を經て、雨龍川・空知川等を併せ、石狩平野中を迂曲して、石狩に注ぐ長さ九十餘里、舟楫の通ずること、流路の過半に及び、其の流域には、大平野あり、實に北海道中最も有益の川なり、而して其の鯉を産することも亦巨額なり。

上川平野

其の上川平野は、石狩川の上流に於て別に一區劃をなし、寒暑の差著しと雖も、官設鐵道空知より延長して、茲に通じ、將來有望の地となれり。旭川は、平原開拓の中心にして、第七師團司令部・上川支廳あり。

日高國

日高は、東北に日高山脈を負ひ、諸川南西に流れて、太平洋に注ぐ、沙流川最も大にして、附近アイヌ人の村落多し。概して此の國はアイヌ人最も多く、殆と全數の五分の二を占む。新冠には、牧場多くして、馬を産す。浦河には、支廳あり、海岸屈曲少く、良港なし。

天鹽國

天鹽は、天鹽川の流域に在り。此の川長さ七十餘里、本島第二の長流なり。川の中流附近に、大炭田あれども、交通不便にして、未だ採掘に至らずと云ふ。海岸は、屈曲少く、港灣に乏し。然れども昆布・鰊等の利は、甚だ多し。海岸に苫前・留萌・增毛等の港あり、中にも增毛は、最南に在りて。小樽との交通、最も便な

北見國

北見は、其の名の如く、北方オコーック海に向ひ、地形狹長にして、弓形を成し、北端宗谷岬は、樺太に對す。鰊の漁獵多し。其の西方に利尻・禮文尻の二島あり。沿岸の地亦港灣少く、僅に紋別・網走あるのみ。宗谷と紋別との中間に枝幸あり、其の附近に多く砂金を産す。網走の南西に、網走湖あり、北西に能取湖・猿間湖あり。後の二湖は、共に海に通ず。

枝幸の砂金

十勝國

十勝は、日高・石狩の東に在り、東部海岸、屈曲少く、十勝川西方の諸水を集めて、海に入る。河中黑曜石多く、十勝石の名あり。其の流域地方は、卽ち十勝大平野にして、平野の中央に、帶廣あり、河西支廳あり。河口の大津は、昆布の採集多し。

釧路國

屈斜路の硫黃

十勝の東は、卽ち釧路にして、北部の火山脈中に阿寒・屈斜路の二大湖あり、阿寒川前者より出で後者より出で、河口に相合して、釧路港に入る。火山脈中、多く硫黃を含み、屈斜路湖の東方にては、盛に之を採掘し、其の額甚だ多量にて、全國中の硫黃は過半此の邊より出づと云ふ。釧路港は、開港場にして、其の東方に厚岸灣あり灣內牡蠣島には、多く牡蠣を産す。其の東に濱中灣あり、釧路・厚岸・濱中は、共に沿海の名邑たり。

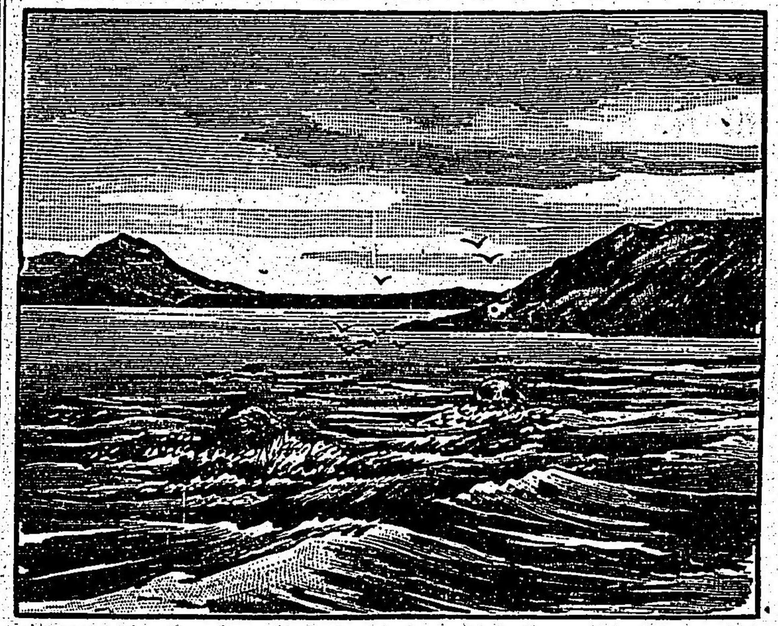
釧路港

根室國

根室港

釧路の北東は、卽ち根室國にして、南隅花咲半島の納沙布岬は、知床岬と對して弓形をなし其の間に根室灣を抱けり。灣內に根室港あり、此の地方に於ける要地なれども、冬季は、港內氷結の憂あり。

千島國



千島三十二島は、根室と堪察加との間に羅列し、國後島に始り占守島に終る。擇捉島最も大にして、島中紗那に支廳あり。

海獸 幌筵・國後・得撫は、其の大游 きさ擇捉に次ぎ、占守・新遊 知・恩爾古丹・捨子古丹等、又之に次ぐ。島中最北に在るは、占守島にして、報公義會の諸氏、此の處に移住せり。

全島氣候寒く農耕には適せずと雖も漁獵の利、甚だ多く、海獸には獺・虎・海豹・膃肭獸・海驢及び鯨等あり。

本道支廳名及び其の所在地

函館支廳	函館	札幌支廳	札幌
龜田支廳	七飯	上川支廳	旭川
松前支廳	福山	浦河支廳	浦河
檜山支廳	江差	增毛支廳	增毛
壽都支廳	壽都	宗谷支廳	稚內
岩內支廳	岩內	網走支廳	網走
小樽支廳	小樽	河西支廳	帶廣
室蘭支廳	室蘭	釧路支廳	釧路
空知支廳	空知	根室支廳	根室
紗那支廳	紗那		

第九節　臺灣

位置　帝國の最南端に、臺灣の大島あり、明治二十七八年戰役の結果として、清國より轉屬せらる。此の島は琉球の南西部に位し、臺灣海峽を隔てて、支那南部と相對し、地形南北に長く、東西に狹く、其の面積殆と九州に同じ。シルビア新高の兩山脈東岸に偏して南北に亘り、其の東方は、傾斜急峻にして、海岸懸崖をなせる處多く、西方は緩漫にして、廣大なる平野に連なる。而して東方の山地は、生蕃の境にして、土地開けず、探檢亦未だ周からず。西方は、耕地頗る開け、都邑も亦多し。氣候は、本部中最も炎熱にして、茶・砂糖・樟腦等の特產あり。

沿革　臺灣は、昔時邦人之を高砂島と云ひ、又高山國といひ、西人は美麗の義に取りて、フォルモーサといふ。臺灣の名は、支那人の附けし所なり。此の島古來馬來人種に屬する土蕃の住居に

生蕃

臺灣の住民及び移住支那人の家屋

委したりしが、和蘭人嘗て一時之を占領し、次いで支那明朝の末に、遺臣鄭成功來りて、之に據り、其の後遂に清朝の叛圖に歸せしより、支那人の移住するもの多くなりぬ。茲に於て蕃人の一部は、支那人に屈服して、其の風俗習慣に移れり、前者は謂はゆる生蕃にして、山間に住し、數多の蕃社をなし、各社長ありて

せしめたり。

臺灣總督府

固有の蕃風を存し、頗る殺伐の氣風あり。後者は謂はゆる熟蕃にして、今や殆と支那風に化せられたり。されば此の島には、此の二種の土人と、移住支那人と三樣の民族居住せり。其の移住支那人は、今も尙辮髮を垂れ、服裝より、家屋の構造に至るまで、皆支那人の風を存す。而して二十七八年戰役の結果は、此の生蕃と熟蕃と移住支那人とを擧げて、臺灣島と共に、我が有に歸

全島内、二十廳を置きて之を管し、上に總督府ありて、之を總管す。今便宜の爲めに、北部、西部、東部及び澎湖列島に分ちて之を述ぶべし。

北部地方

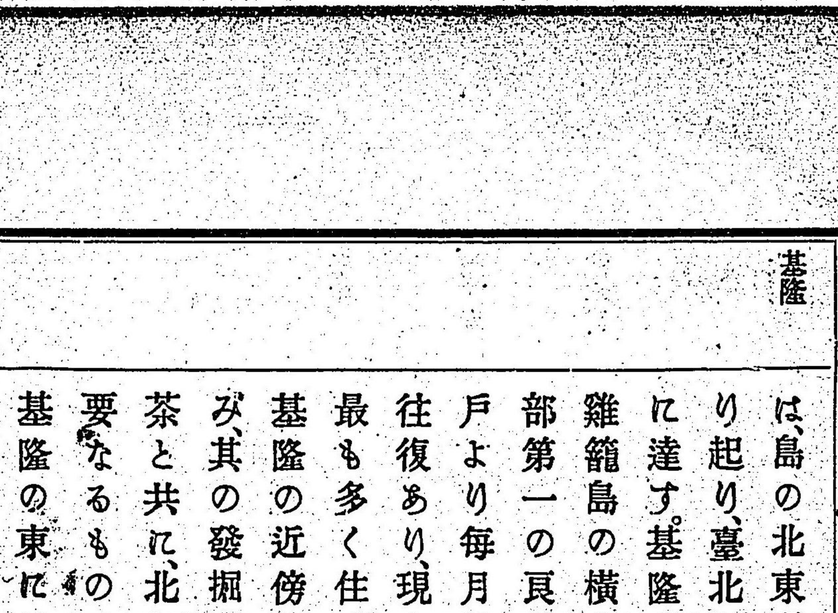
此の地方は、北部に大屯山あり、南に新高山脈あり、其の間に臺北あり。

臺北は、淡水河に瀕し臺灣の尙清國領たりし時に於て、全島の首府たりし處にして、今總督府及び混成第一旅團司令部等あり。附近に大稻埕・艋舺あり、共に淡水河に臨み、商業繁盛なり。河は本島第一の大河にして、北に流れ、淡水港(滬尾)に至りて、海に入る。河口より艋舺まで、小汽船を通ずべし。淡水河の通ずる所は、近傍に良田多く、孟宗竹處々に繁茂し、又多く茶を栽培す、大稻埕の如きは、實に製茶の本場なり。臺灣鐵道

基隆

は、島の北東隅基隆港より起り、臺北を經て、新竹に達す。基隆港は、前面に雞籠島の橫はるあり、北部第一の良港にして、神戸より毎月數回、汽船の往復あり、現今内地人の最も多く住する所なり。基隆の近傍は石炭に富み、其の發掘高頗る多く、茶と共に、北部産物の主要なるものたり。

基隆の東に瑞芳あり、近傍より砂金を産す。東岸に宜蘭あり、宜蘭の南に、蘇澳港あり、開港場なり。



基隆

本地方中の廳名及び其の所在地

臺北廳　臺北
基隆廳　基隆
深坑廳　深坑
宜蘭廳　宜蘭
桃仔園廳　桃仔園

西部地方

西部地方とは、本島西部平原一帶を含み、北の方新竹より、南の方臺南に至るまでを總稱す。

臺中は、西部の中央に在りて、混成第二旅團司令部を設置す。其の北方に、苗栗あり、苗栗は、山間の一邑なれども、樟腦の製造多し。然れども其の地、蕃地に近く、時に蕃人の襲來を被ることありと云ふ。

宜蘭

臺中

苗栗

苗栗より後壠溪を下れば、後壠港あり、一の開港場なり。然れども水淺くして、大船を容れ難く、唯支那船の多く來つて碇泊するあるのみ。苗栗の北に、新竹あり、其の北西に當り舊港あり、亦開港場たり。

新竹

彰化

臺中の西部に、彰化あり、其の西に鹿港あり、是亦開港場たり。

臺中の南方に、嘉義あり、南北部通路の要所なり。其の西方東石港は、亦開港場なり。

本地方廳名及び其の所在地

臺中廳	臺中
苗栗廳	苗栗
新竹廳	新竹
鹽水港廳	鹽水港

南部地方

臺南

南部地方は、臺南より南恒春に至るまでを總稱するものにして、東方は山地なれども、西部は平地なり。

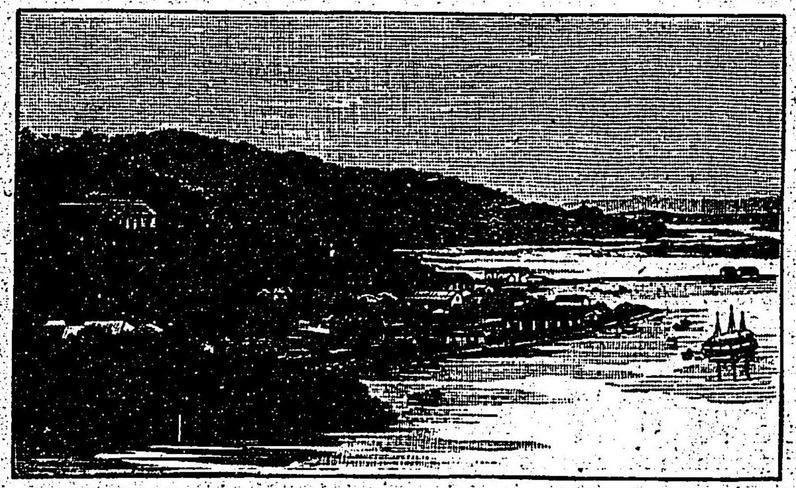
臺南は、此の地方の最南部に在りて、臺南廳及び混成第三旅團司令部等あり。商業の繁盛なること、臺灣第一なりと云ふ。此の地は、嘗て和蘭人の據りし處にして、紅毛城阯尚見るべし。後明の遺臣鄭成功の之を取れるも、我が邦人濱田彌兵衞の蘭人を威服せしも、皆此の地に起りし事にて歷史上故跡多き處なり。臺南の西に、安平港あり、南西部の盛なる開港場にして、砂糖の輸出多し。凡そ臺灣南部は土地低濕にして、甘蔗に適し、其の砂糖は、南部の主要なる物産たり。

安平港

臺南の南方に、鳳山あり、此の地方枝竹パイプの名産あり。其の西に打狗港あり、臺灣鐵道の豫定終點なり。此の港は、舊盛なる開港場なりしも、安平の盛なるに從ひ、次第に衰微する

鳳山

打狗港

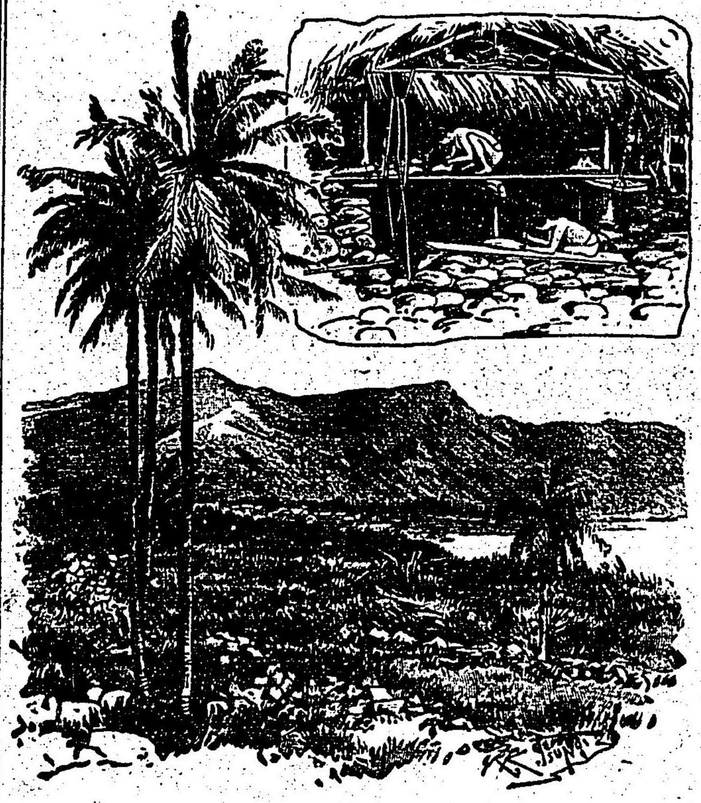


打狗港

の傾あり。南東南淡水溪口に東港あり、開港場にして、前面に小琉球島あり。臺灣島の極南を南岬といふ、卽ち我が帝國の最南にして赤道を距る二十一度に滿たず。其の北西に恒春あり。

打狗港　本地方中の廳名及び其の所在地

臺南廳　臺南
蕃薯藔廳　蕃薯藔
鳳山廳　鳳山
阿猴廳　阿猴
恒春廳　恒春



紅頭嶼

東部地方

東部地方は、脊梁山脈の東方一帶の地を稱するものにして、一般に山岳重疊し、東岸は、懸崖絶壁多く、中には、直立五六千尺に及べるものあり、其の間僅に花蓮港等の船を寄すべきあるのみ。南東の卑南大溪の下流に、卑

臺東

南あり、臺東廳の所在地たり。生蕃は、數多の蕃社をなして山間に住し、闘爭を事とし、時に西方に出でて、襲撃を逞しうすることあり。然れども耕耘に從事するものも亦少からず。

紅頭嶼

南東海中に、紅頭嶼あり、周圍凡そ十二三里、亦馬來人種に屬する一種の土人ありて、之に住す。其の數僅に一千二三百人、風俗頗る本島の蕃民と異なる所あり。

媽宮港

澎湖列島

澎湖島は、臺灣の屬島中、最も樞要の位置に在りて、三大島と數多の小島とより成り、其の中澎湖本島最も大なり。西部に媽宮（マコン）港あり、澎湖廳の所在地にして、開港場の一たり。西に漁翁島あり、北に白沙島あり、三島相依つて、中に澎湖港を擁す、航行の船舶、往々此に至りて、臺灣海峽の暴風を避く。島中米穀を産せず、落花生、雞、豚等を臺灣本島に輸出して、米に代ふ。

地理教科書卷一　終

明治三十六年二月十日印刷
明治三十六年二月十三日發行

地理教科書
定價金一金七拾錢

不許複製

著作者　脇水鐵五郎

發行兼印刷者　金港堂書籍株式會社
東京市日本橋區本町三丁目十七番地

右社長代表者　原亮一郎
東京市下谷區龍泉寺町四百十四番地

印刷所　合資會社東京國文社
東京市京橋區宗十郎町十五番地

寶捆所　各府縣特約販賣所

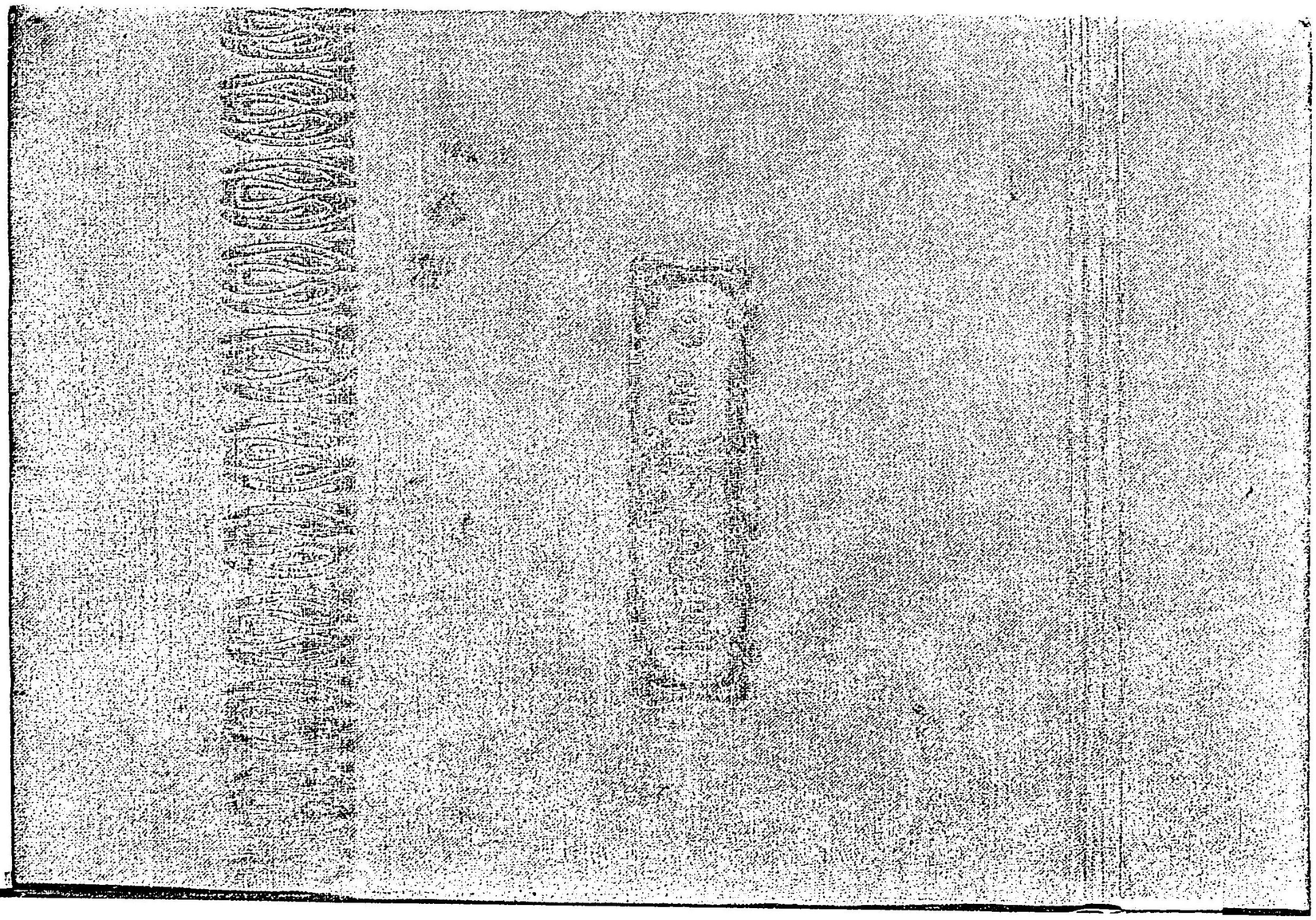
內國地理小誌　新保磐次氏著　全壹冊　定價八拾五錢

外國地理小誌　新保磐次氏著　全壹冊　定價九拾錢

日本中地理　文學士喜田貞吉氏著　全壹冊　定價五拾五錢　附圖五拾錢

外國中地理　文學士幸田成友氏著　全壹冊　定價壹圓

地文學教科書　理學士山崎直方氏著　全壹冊　定價八拾錢



022148-001-5

86-351

地理教科書

脇水　鉄五郎／著

M36

ADA-0556